

3 事前調査結果

3.1 水象

3.1.1 河川・湖沼等の概要

調査範囲の主な河川は表 3-1、河川の位置図は図 3-1 に示すとおりである。計画地の南側には、名取川水系の一級河川である広瀬川が北西から南東方向に蛇行しながら流下し、その南側に一級河川である笹川、後田川が同じく北西から南東方向に向かって流れ、仙台市若林区で広瀬川と合流する。計画地の北側では、七北田川水系に属する二級河川梅田川が東西方向に走り、梅田川と仙台川放水路トンネルで接続されている二級河川仙台川が東北方向へ流下し七北田川に合流する。また、計画地東側には二級河川高野川、藤川が東方向に流下し、梅田川に合流している。

調査範囲の主な湖沼・ため池は表 3-2、湖沼・ため池の位置図は図 3-2 に示すとおりである。湖沼・ため池は、計画地の北側に多く分布しており、主要なものとしては、東北側には、大堤沼、小松島沼、与兵衛沼、北側に真美沢堤、三共堤、北西側にうどう沼、南西側に五色沼があげられる。

表3-1 調査範囲の主な河川

番号	種別	名称	総延長(m)
1	一級河川	広瀬川	36,135 (3,900)
2	一級河川	笹川	3,700 (2,500)
3	一級河川	後田川	2,200
4	二級河川	梅田川	13,035
5	二級河川	仙台川	4,300
6	二級河川	高野川	3,900
7	二級河川	藤川	1,500

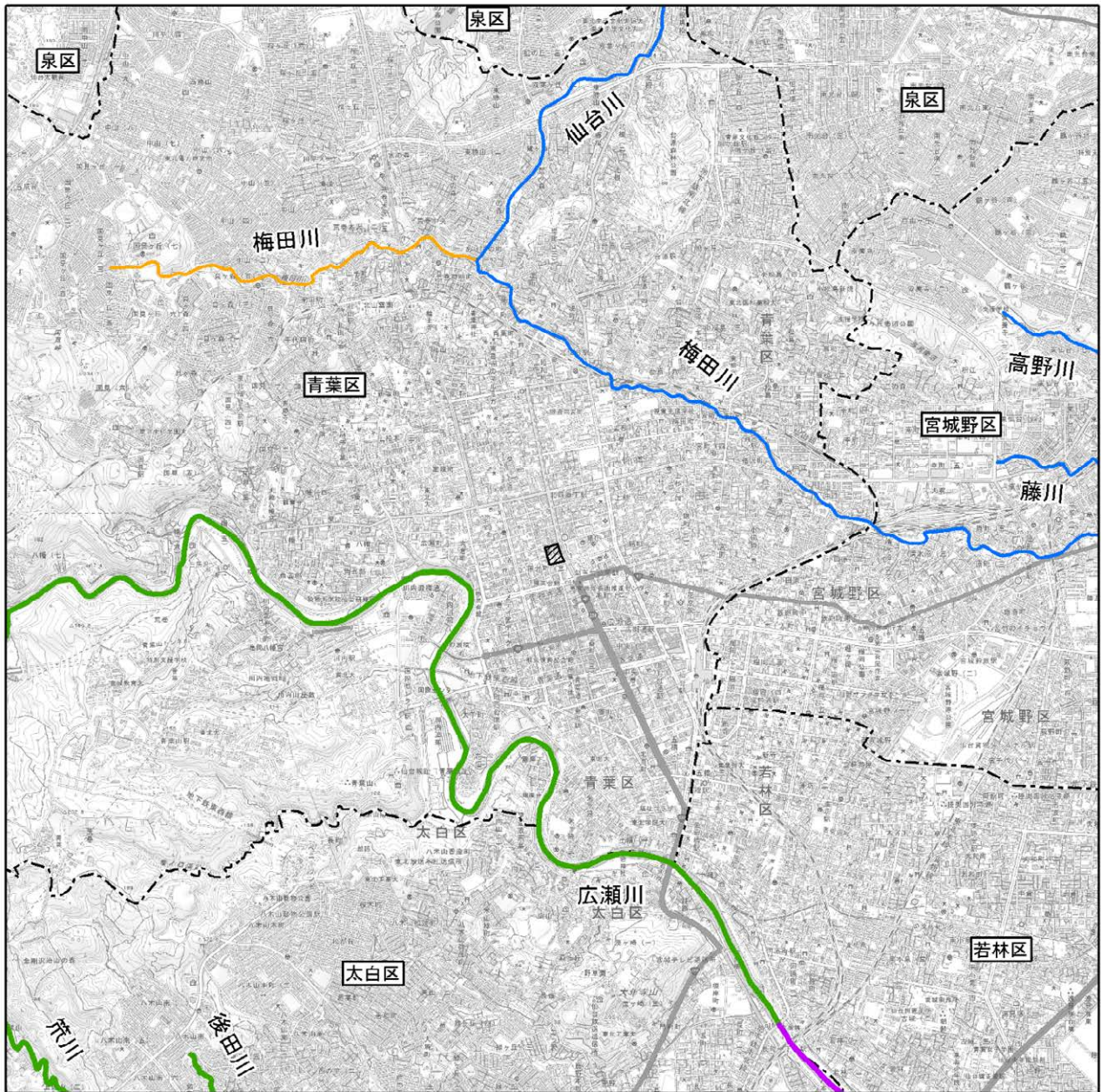
※ () は指定区間外

出典：「みやぎの河川・ダム・海岸（宮城県河川・海岸図）」（平成 29 年 4 月 宮城県土木部河川課）

表3-2 調査範囲の主な湖沼・ため池

番号	名称
1	三共堤
2	真美沢堤
3	台原森林公園
4	大堤沼
5	小松島沼
6	与兵衛沼
7	うどう沼
8	国見ヶ丘二号緑地
9	貝ヶ森 2 丁目調整池
10	貝ヶ森 3 丁目調整池
11	貝ヶ森中央公園
12	五色沼

※湖沼・ため池は、基盤地図情報水域データと空中写真判読により抽出し、比較的面積の大きい湖沼・ため池について、「せんだいくらしのマップ」における名称を記載している。名称の記載のないものについては、直近の字名を記載している。



凡例

計画地

区界

主要な河川

一級河川(国直轄区間)

一級河川(県管理区間)

二級河川(県管理区間)

二級河川(市管理区間)

出典：

「国土数値情報河川データ(平成19年データ)」「国土数値情報ダウンロードサービス 国土交通省 令和2年6月4日)

「宮城県河川・海岸図」(宮城県河川課 HP 令和2年6月閲覧)

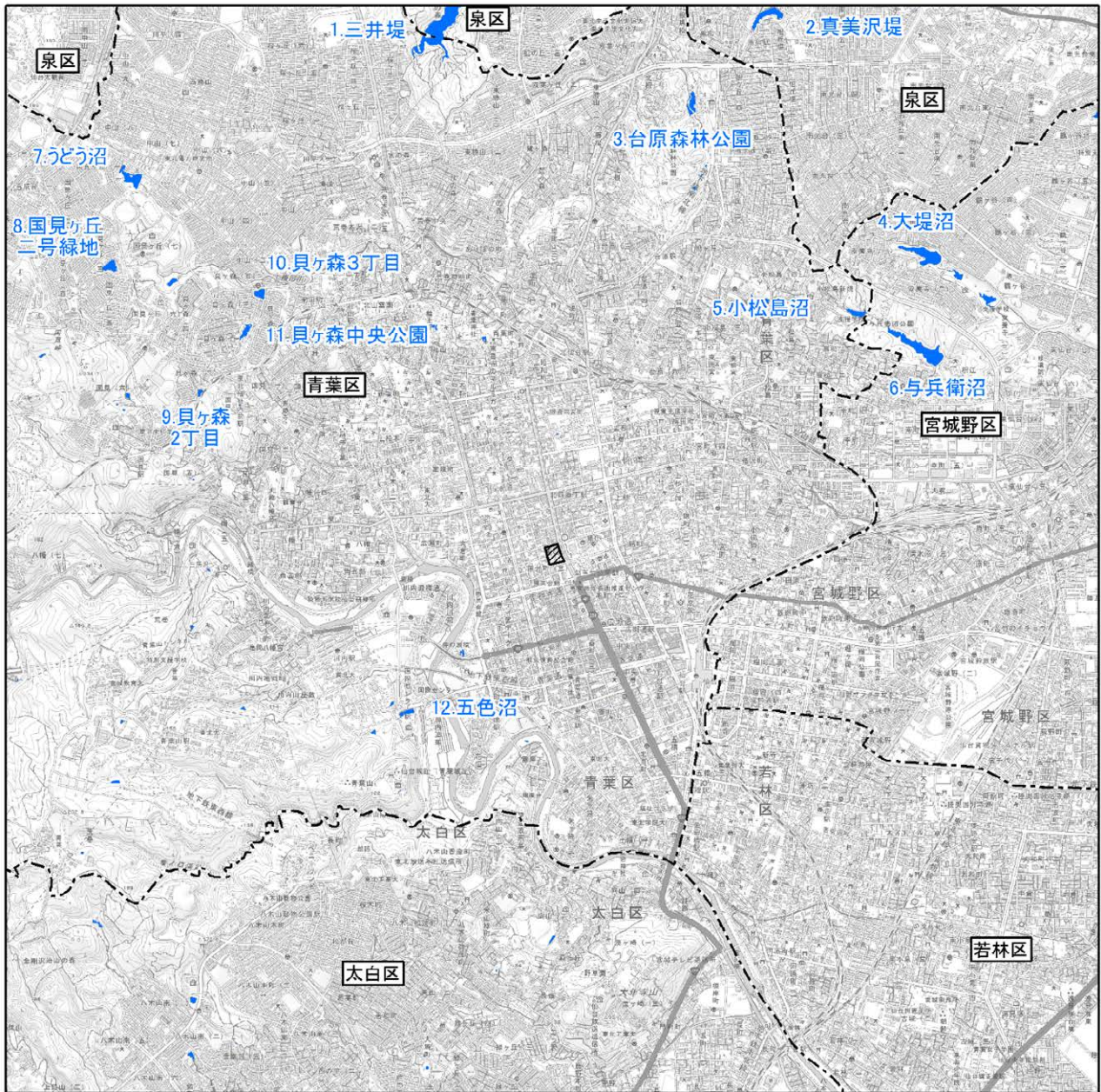
「仙台市河川図」(仙台市建設局河川課 HP 令和2年6月閲覧)



1:50,000



図3-1 計画地周辺の河川の位置図



凡例

-  計画地
-  区界
-  湖沼・溜池等

出典：

「基盤地図情報水域データ」(国土地理院 令和2年6月4日ダウンロード)
 から空中写真判読により「湖沼・溜池」のみを表示
 「せんだいくらしのマップ」(仙台市、令和2年6月閲覧(主要なため池の名称の確認))
 「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成28年3月 仙台市)

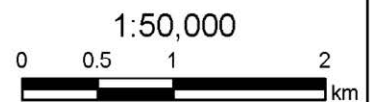


図3-2 計画地周辺の湖沼・ため池の位置図

3.1.2 水源地の概要

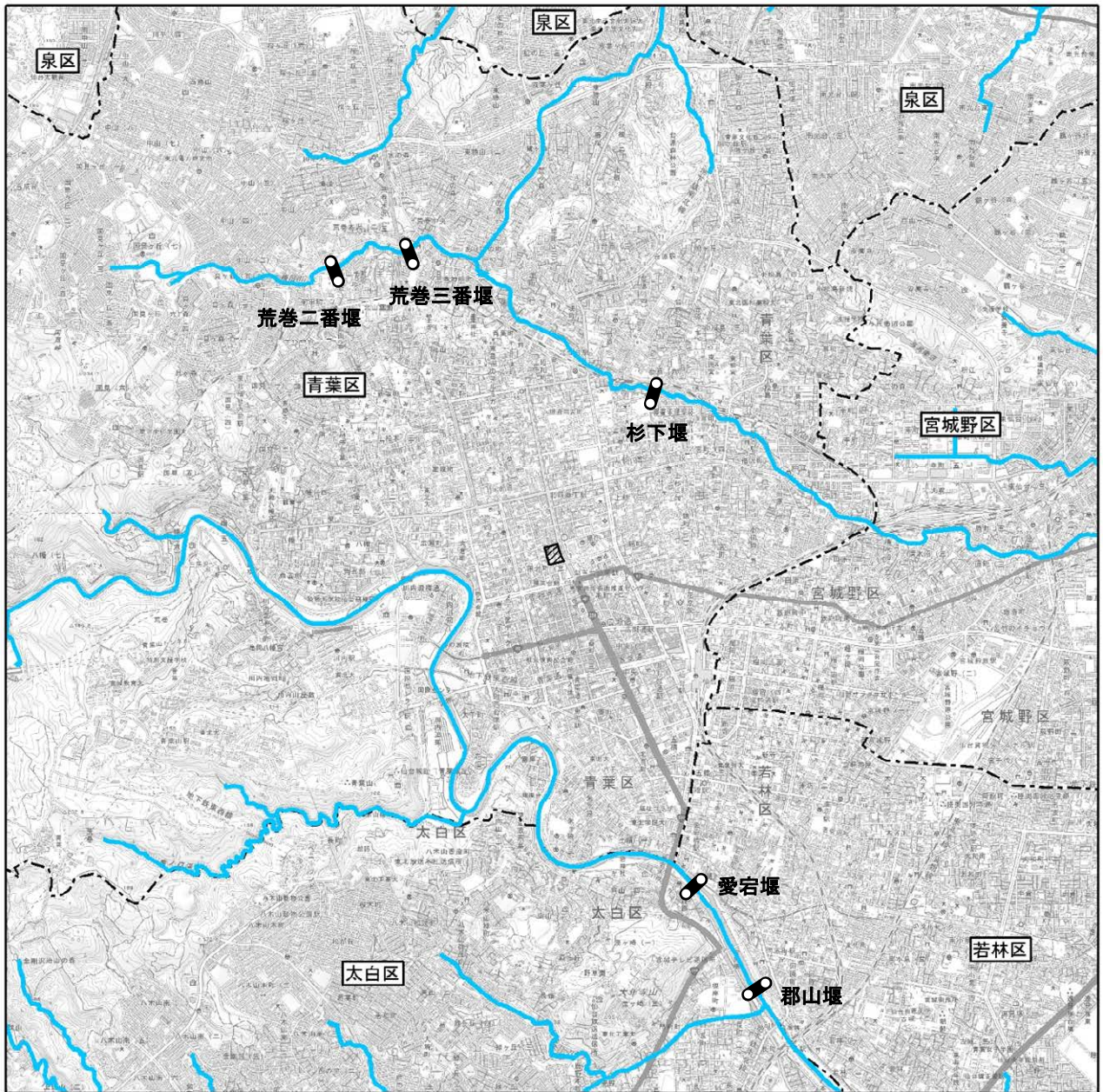
農業用水取水施設の概要は表 3-3、農業用水取水位置図は図 3-3 に示すとおりである。

調査範囲では、名取川水系の広瀬川及び七北田川水系の梅田川に 5 つの農業用水取水施設があり、最も取水量が多い愛宕堰では代播き期で 7.4250m³/s、普通期で 6.0450m³/s、非かんがい期で 0.3000m³/s を取水している。

表3-3 農業用水取水施設の概要

水系	河川名	河川区分	施設名	用排区分	左右岸別	施設所在地	取水量 (最大 m ³ /s)			施設管理者
							代播き期	普通期	非かんがい期	
名取川	広瀬川	一級	郡山堰	用	右	仙台市青葉区根岸	0.1800	0.1610	不明	仙台市
	広瀬川	一級	愛宕堰	用	左	仙台市若林区土樋	7.4250	6.0450	0.3000	仙台市
七北田川	梅田川	二級	杉下堰	用	左	仙台市青葉区梅田町	0.2000	0.2000	0.2000	四ッ谷堰協会
	梅田川	二級	荒巻三番堰	用	左	仙台市青葉区荒巻洞谷	0.0300	0.0400	不明	荒巻水利組合
	梅田川	二級	荒巻二番堰	用	右	仙台市青葉区荒巻	0.0350	0.0350	0.0350	荒巻水利組合

出典：「農業用水施設台帳(河川取水施設) 改訂五版」(平成 20 年 3 月 宮城県農林水産部農村振興課)



凡例

-  計画地
-  区界
-  河川
-  堰・頭首工



1:50,000



出典：「河川取水施設図」（平成 20 年 3 月 宮城県農林水産部農村振興課）

図3-3 農業用水取水位置図

3.1.3 湧水の概要

調査範囲の湧水の位置は表 3-4 及び図 3-4 に示すとおりとなっており、計画地の北東側に野田の清水、北側に輪王寺内湧水と青葉神社内湧水、西側に山上清水が分布する。計画地の南側には、広瀬川の左岸側に岡清水、右岸側に清水門の清水、御清水がある。

仙台市における飲用井戸の設置数は、表 3-5 に示すとおりである。仙台市全体では 5,325 箇所の飲用井戸が設置されており、そのうち、計画地が位置する青葉区は 1,035 箇所であり、市全体の 19.4%を占めている。

表3-4 調査範囲における湧水地点

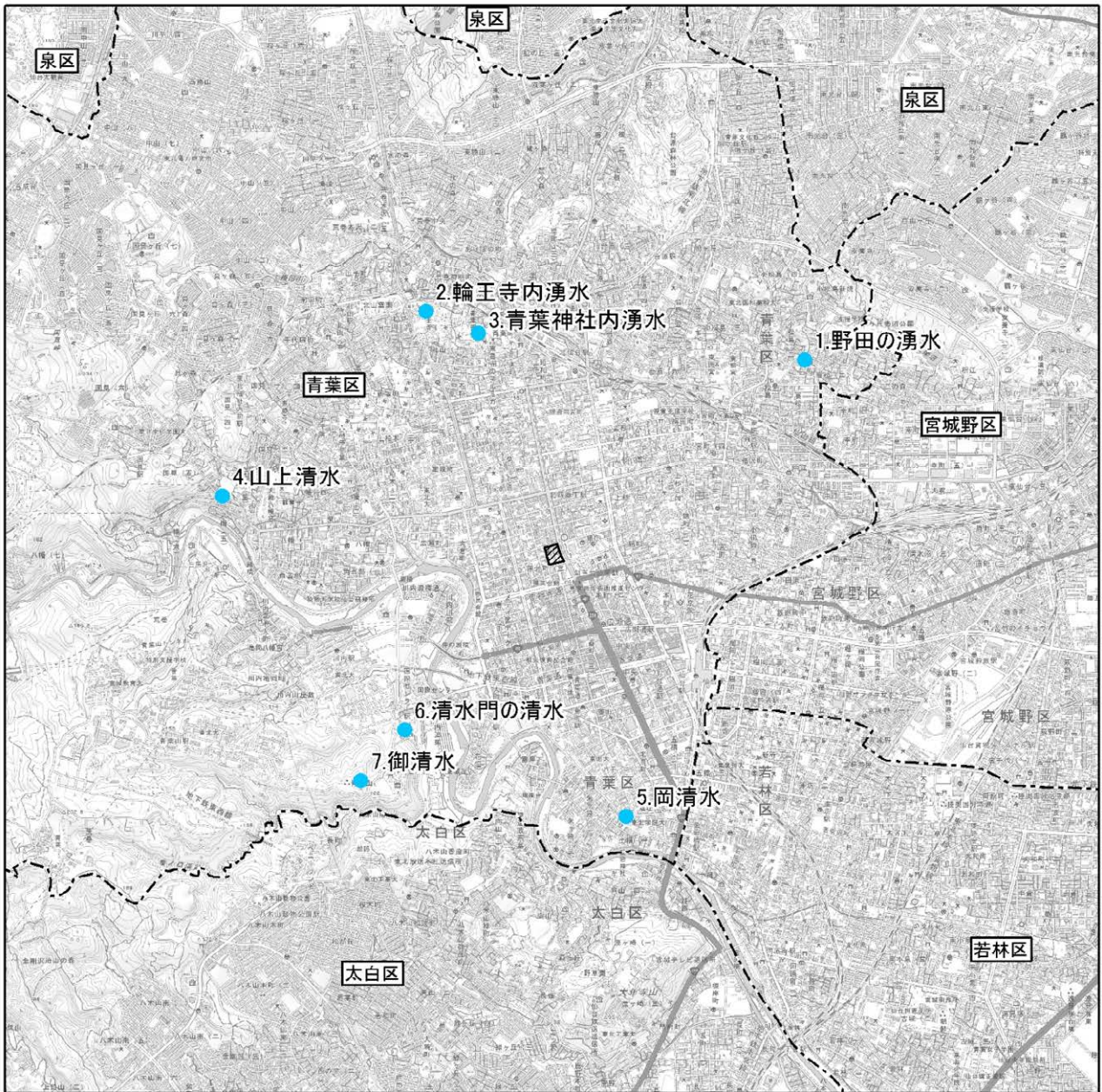
番号	名称	所在地	概要
1	野田の清水	青葉区高松二丁目	万寿寺境内に保存されている。伊達家のせん茶用として使用されていたとされる。かつては飲料水や生活用水として使用されていた。
2	輪王寺内湧水	青葉区北山一丁目	輪王寺の墓地内のわずかな所に水が染み出す箇所があるが、雨量に左右され、雨の少ない時期には染み出しを確認できない時もある。
3	青葉神社内湧水	青葉区青葉町	元々は沢があり、後に神社の参道石段ができたもので、湧水は石段の上り口 1～3 段目位の所からみられ、年中濡れている。
4	山上清水	青葉区八幡五丁目	仙台三清水に挙げられていた。昔は付近の民家等で使用されていたが、現在は使用されていない。
5	岡清水	—	民家宅地内にあり、斜面の古い井戸状のものがある所に湧水源がある。
6	清水門の湧水	青葉区川内仙台市博物館	仙台市博物館の裏手にあるこけむした石垣は、仙臺城三の丸への入り口のひとつ清水門の名残り。この脇には、仙臺藩御用酒づくりに使われた清水が今も湧いている。
7	御清水	青葉区川内東北大学附属植物園	仙臺城の重要だった湧水で、東北大学植物園内、大深沢の上流の海拔 120mの所にある。この水は、本丸の貯水槽に引いて水堀や飲料水として利用し、余った水は谷沿いに流して、中嶋池に注ぐように工夫されていた。この池の余り水は、外堀の長沼や首洗池にも流れ込むようになっており、長沼からしみ込んだ水は、三の丸周辺の武家屋敷の井戸水として広く利用されていた。水量は安定している。

出典：「平成 27 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 28 年 3 月 仙台市）

表3-5 飲用井戸設置数

市/区	飲用井戸数(箇所)
仙台市	5,325
青葉区	1,035
宮城野区	41
若林区	2,087
太白区	1,816
泉区	346

出典：「飲用井戸数等調査報告書」（平成 13 年 3 月 仙台市）



凡例

-  計画地
-  区界
-  湧水

出典：「平成 27 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
 (平成 28 年 3 月 仙台市)

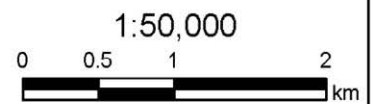


図3-4 計画地周辺の湧水の位置図

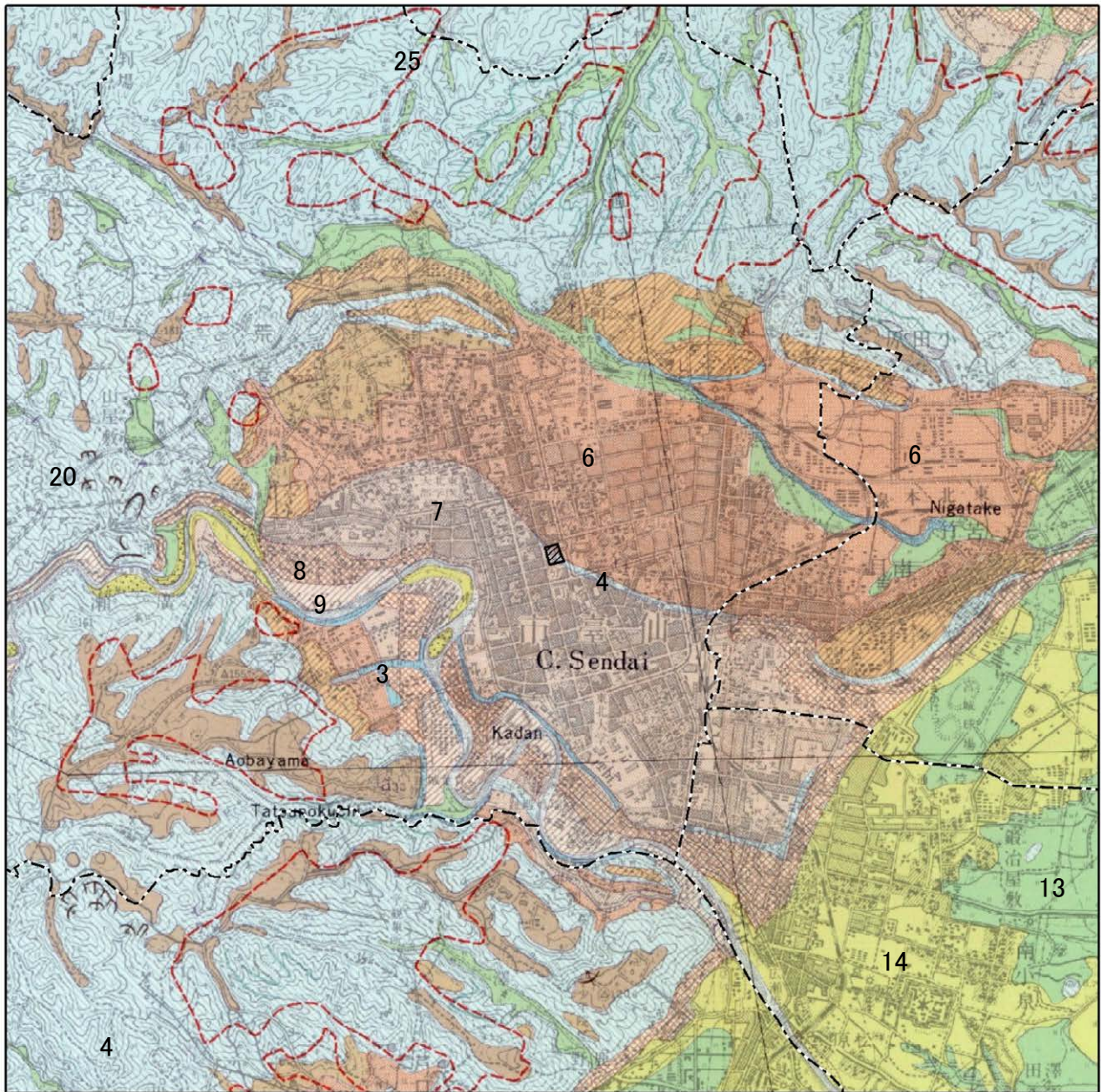
3.2 地形・地質

3.2.1 現況地形・地質

調査範囲の地形・地質の状況は、図 3-5 及び図 3-6 に示すとおりである。

宮城県の地形は、奥羽山脈に代表される西部山岳地帯、北上高地・阿武隈高地に代表される東部山岳地帯、それらに挟まれた中央低地帯の 3 つに大別され、計画地は、中央低地帯に属している。中央低地帯は第三紀層からなる丘陵部と沖積層からなる平野部とに分けられる。計画地は中央低地帯南部の仙南平野に位置し、北側に七北田丘陵、南西側に名取丘陵を後背地として持ち、名取川水系流域に発達した砂礫台地上に立地している。計画地南西側に流下している広瀬川沿いでは河岸段丘が特徴的な地形を呈している。

砂礫台地上に位置する計画地の表層地質は、半固結堆積物である、礫・砂層 (gm1)、礫・泥層 (gm2) の境界線上に立地している。計画地南西の広瀬川右岸の丘陵地帯は火山性堆積物であるローム層 (L) が広がり、計画地南東部の平地部分では未固結堆積物の砂・礫・泥層 (sgm) からなる。



凡例

計画地
 区界

丘陵地

- 1. 丘頂緩斜面および丘腹緩斜面
- 2. 丘麓緩斜面
- 3. 急斜面(谷密度80以上)
- 4. 急斜面(谷密度80未満)

砂礫台地

- 5. Gt I(上位)
- 6. Gt II+(中位)
- 7. Gt II(中位)
- 8. Gt III+(下位)
- 9. Gt III(下位)

岩石台地

- 10. Rt I(上位)
- 11. Rt II(中位)
- 12. Rt III(下位)

低地

- 13. 谷底平野
- 14. 自然堤防及び砂堆・浜堤
- 15. 海岸平野
- 16. 河原および浜
- 17. 砂丘

その他

- 18. 湿地
- 19. 泥炭地
- 20. 地すべり地形
- 21. 崖
- 22. 遷移点
- 23. 傾斜変換線
- 24. 地形界
- 25. 人工平坦地界(昭和40年5月現在)

出典：

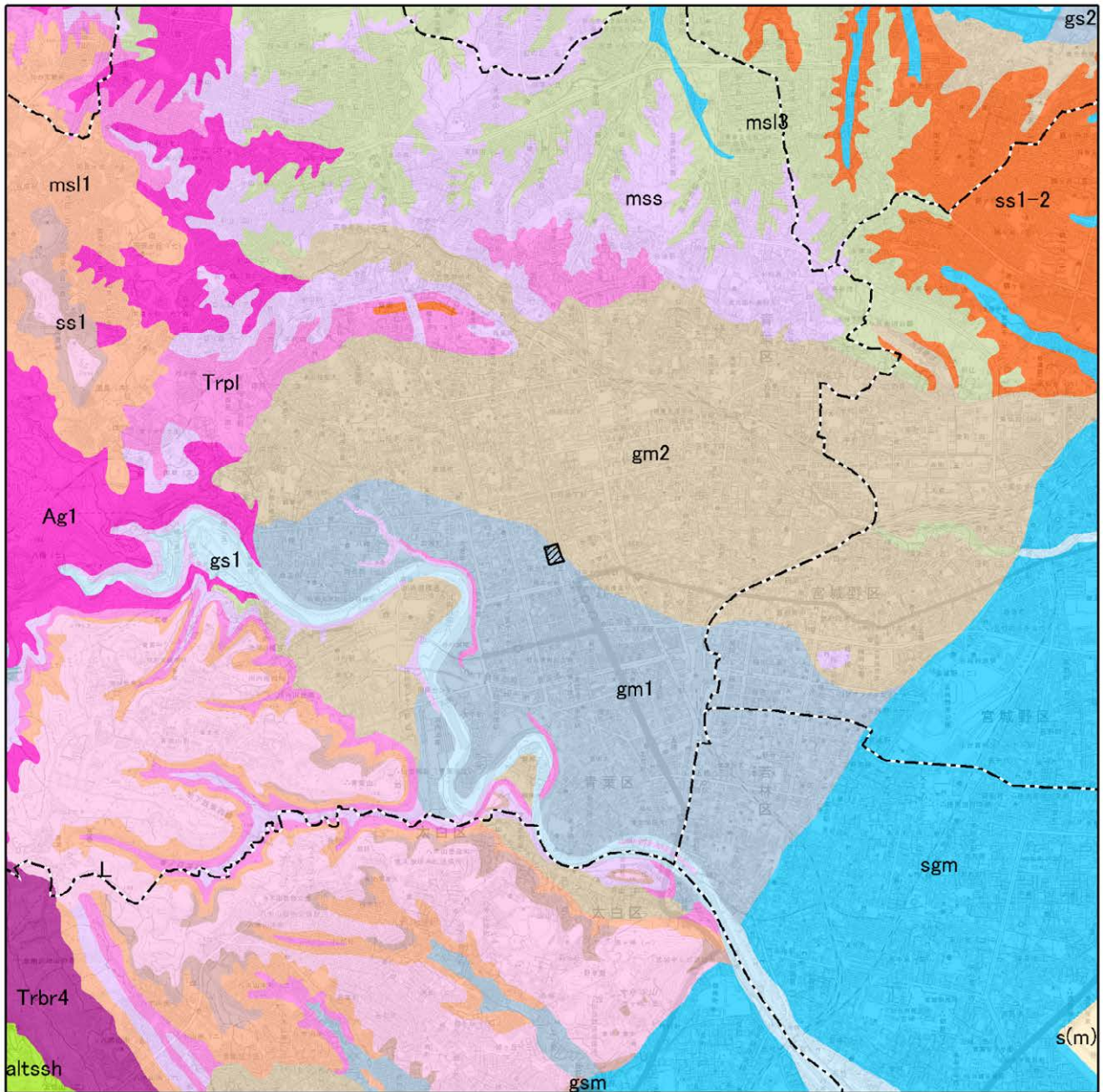
「5万分の1 都道府県土地分類基本調査(仙台)地形分類図」
 (国土交通省国土政策局国土情報課 令和2年6月閲覧)








1:50,000



図3-5 計画地周辺の地形分類図



凡例

- | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  計画地 | 表層地質 |  msl1 泥岩・亜炭 |
|  区界 |  gs1 砂・礫 |  mss 泥岩・砂岩 |
| |  gs2 礫・砂 |  msl3 泥岩・亜炭 |
| |  sgm 砂・礫・泥 |  ss1-2 砂岩 |
| |  s(m) 中粒砂 |  altssh 砂岩・頁岩互層 |
| |  gm1 礫・砂 |  L 口-L層 |
| |  gsm 礫・砂・泥 |  Trpl 浮石質凝灰岩 |
| |  gm2 礫・泥 |  Ag1 集塊岩 |
| |  ss1 砂岩・亜炭 |  Trbr4 角礫質凝灰岩 |

出典：
 「5万分の1土地分類基本調査 GIS データ（表層地質図）仙台」
 （国土交通省国土政策局国土情報課 令和2年6月4日ダウンロード）

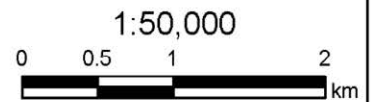


図3-6 計画地周辺の表層地質図

3.2.2 注目すべき地形・地質

調査範囲の注目すべき地形・地質の状況は、表 3-6 及び図 3-7 に示すとおりである。調査範囲内には、丘陵地形、化石産地、活断層地形、ナメ、淵、風隙、瀬等の広瀬川に係る地形が存在する。

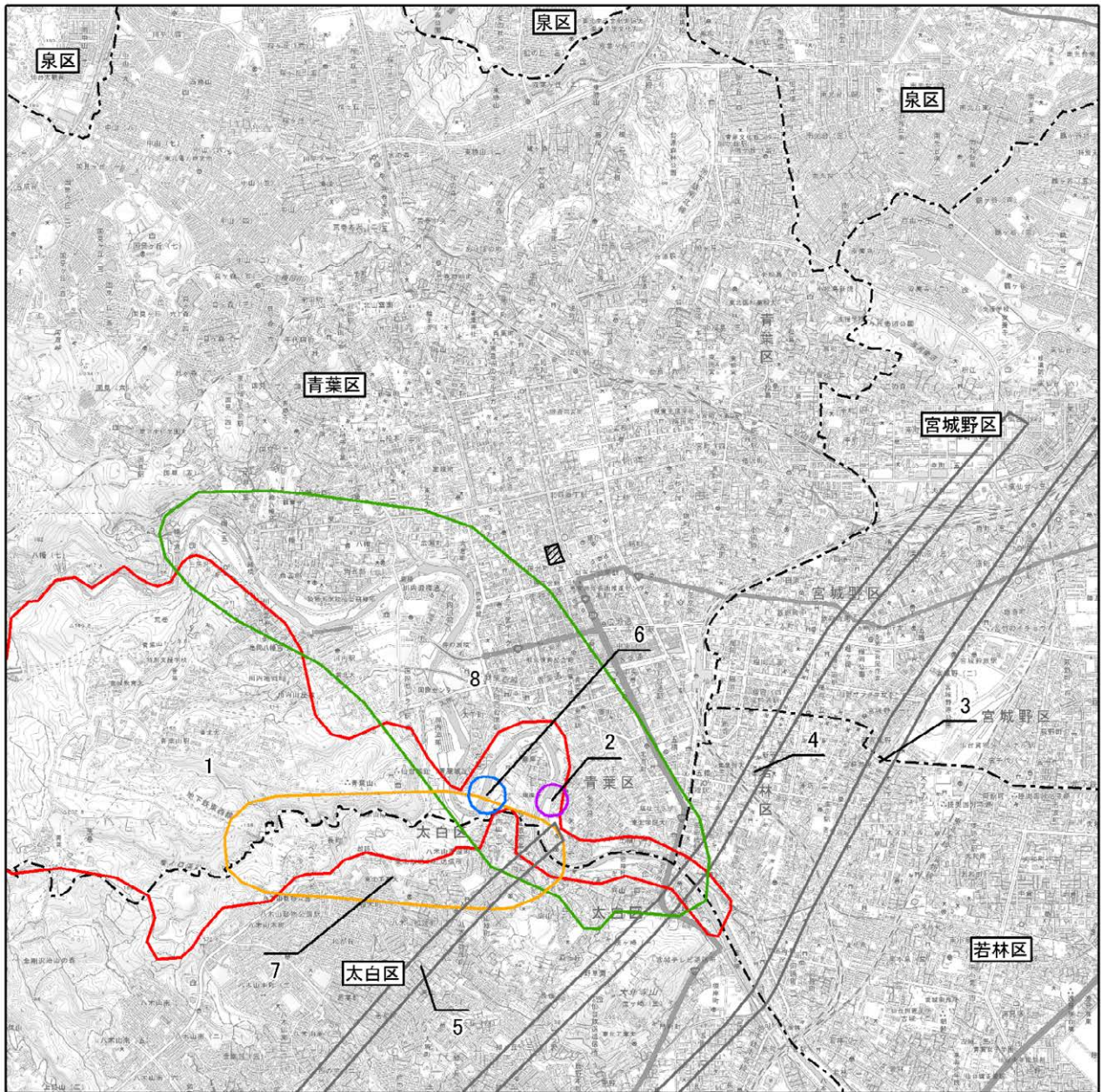
表3-6 注目すべき地形・地質

番号	名称	種別	概要	元資料 (※1)に おける出典
1	青葉山丘陵 と竜ノ口溪 谷及びその 下流部	丘陵地形・峽 谷・風隙の典 型例で学術上 重要、かつ動 植物の重要な 生育地	広瀬川の清流を守る条例による特別環境保全地域。国指定天然記念物(青葉山)。中部更新統風化礫層の堆積面に起源をもつ典型的な丘陵地形と、それを切り、鮮新統半固結堆積岩類が露出した峡谷、及びかつてはその下流部にあたり、河川争奪により風隙化した凹地が、市街地に接して(一部は市街地の中に)みられる。	①③⑤
2	霊屋下セコ イヤ類化石 林	化石産地	市指定天然記念物。霊屋橋の下流に、300 万年以前のセコイヤ類の大森林が火山灰に埋められて化石となったもの。	②
3	長町・利府	活断層地形	宮城郡利府町放森付近から仙台市太白区長町を経て太白区富田付近に至る長さ約 17 k m、活動度がB級の活断層である。本断層は、北東-南西方向の走向を示す北西上がりの逆断層で、断層崖及び低断層崖を含む撓曲崖の崖線に沿っているとされている。また、本断層の北西側(断層上盤側)は、仙台市宮城野区鶴ヶ谷付近から榴ヶ岡を経て、太白区の大年寺南西方へと連なる隆起帯を形成している。さらに、この隆起帯(台地~丘陵)南東翼部では鮮新統が最大約 45°、青葉山段丘の礫層が約 22° 南東方に傾斜するといった新期の地層の変形が報告されている。	④⑤
4	大年寺山	活断層地形	仙台市宮城野区清水沼付近から太白区三神峯に至る長さ約 8 k m、活動度B級の活断層である。本断層は、北東-南西方向の走向を示す南東上がりの逆断層で、逆むき低断層崖に沿って認められている。大年寺山南東側の二ツ沢において、断層露頭(断層の走向・傾斜: N 73° E・25° SE)が見られる。	④⑤
5	鹿落坂	活断層地形	鹿落坂付近から金剛沢付近にかけて認められる直線谷及び南東上がりの逆むき低断層崖に沿って分布している。本断層は広瀬川河岸では向山層に約 12m 垂直変位、八木山松波町付近では青葉山段丘面Ⅲに約 6m 垂直変位をあたえている。本断層の長さは、鹿落坂付近から金剛沢付近までの約 4.2 k m である。本断層は、青葉山段丘面の形成する平坦面を基準として、約 0.03mm/年で、活動度はCクラスに属する。	④⑤
6	虚空蔵淵	ナメ・淵	市街地に隣接する典型的なナメ・淵。	⑤
7	古竜ノ口川	風隙	広瀬川の清流を守る条例による特別環境保全地域。典型的な風隙。	⑤
8	広瀬川(牛越 橋上流~愛 宕橋間)	瀬	広瀬川流域の典型的な瀬(瀬・淵の繰り返し)	⑤

出典:「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(平成 29 年 3 月 仙台市)

※1 同報告書に記載されている各項目の出典は以下のとおり。

- ① 「すぐれた自然図(宮城県)第1回自然環境保全調査(すぐれた地形・地質・自然現象)」(環境庁、1975-1976)
- ② 「仙台市教育委員会資料(文化財関係資料)」
- ③ 「日本の地形レッドデータブック」(小泉武栄・青木賢人、1994)
- ④ 「新編日本の活断層」(活断層研究会、1991)
- ⑤ 「日本の典型地形 都道府県別一覧」(国土地理院、1999)



凡例

計画地

区界

注目すべき地形・地質

丘陵地形・峡谷・風隙

風隙

瀬

ナメ・淵

化石産地

活断層地形

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」
(平成 29 年 3 月 仙台市)



1:50,000



図3-7 注目すべき地形・地質

3.2.3 災害防止に係る指定区域等

(1) 急傾斜地崩壊危険区域、砂防指定地、地すべり防止区域

調査範囲の指定区域は、図 3-8 に示すとおりとなっている。

「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」に基づく急傾斜地崩壊危険区域は、計画地近傍では広瀬川左岸の広瀬町澱橋付近で 3 か所、大手町の大橋付近で 2 か所が指定されている。

「砂防法」並びに「地すべり等防止法」に基づく砂防指定地及び地すべり防止区域は、計画地西側の仙台市青葉区荒巻の広瀬川左岸付近及び、及び仙台市太白区大年寺付近に複数箇所が指定されているが、計画地近傍には指定箇所はない。

出典：「せんだいぐらしのマップ（土砂災害危険地マップ）」（仙台市、令和 2 年 6 月閲覧）
<https://www2.wagmap.jp/sendacity/Portal>

(2) 土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊、土石流、地すべり）

調査範囲の指定区域は、図 3-9 に示すとおりである。

計画地の北側の七北田丘陵、及び南西側の名取丘陵に、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害のおそれのある土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊、土石流、地すべり）が、複数指定されているが、計画地近傍には指定箇所はない。

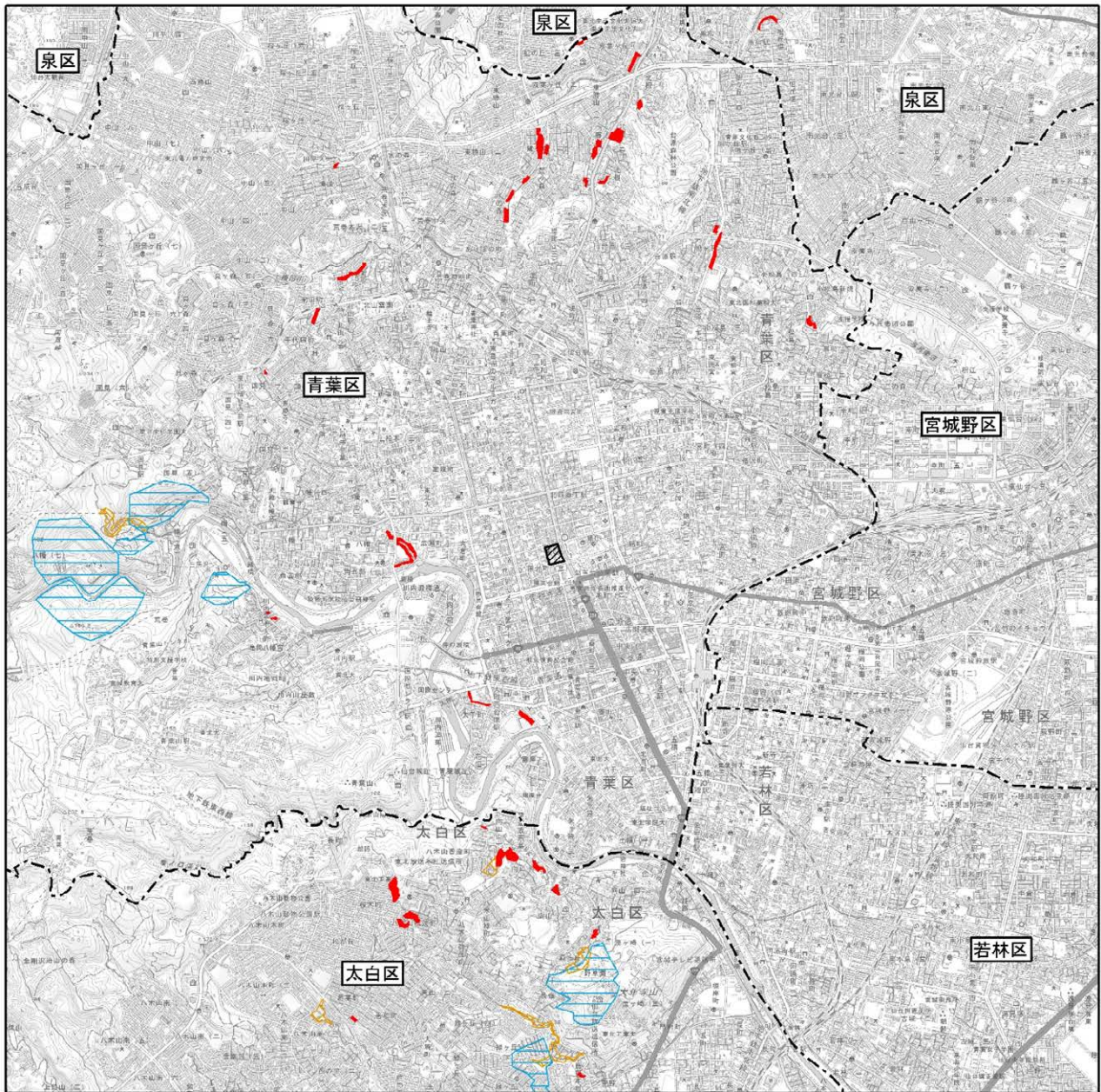
出典：「せんだいぐらしのマップ（土砂災害危険地マップ）」（仙台市、令和 2 年 6 月閲覧）
<https://www2.wagmap.jp/sendacity/Portal>

(3) 土砂災害危険箇所（土石流危険漢流、地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所）

調査範囲の指定区域は、図 3-10 に示すとおりである。

計画地北側の七北田丘陵に多くの急傾斜危険箇所がみられるほか、計画地南西側の青葉山周辺で、急傾斜危険箇所、土石流危険箇所、地すべり危険箇所が多く分布しているが、計画地近傍にはいずれの危険箇所も存在しない。

出典：「せんだいぐらしのマップ（土砂災害危険地マップ）」（仙台市、令和 2 年 6 月閲覧）
<https://www2.wagmap.jp/sendacity/Portal>



凡例

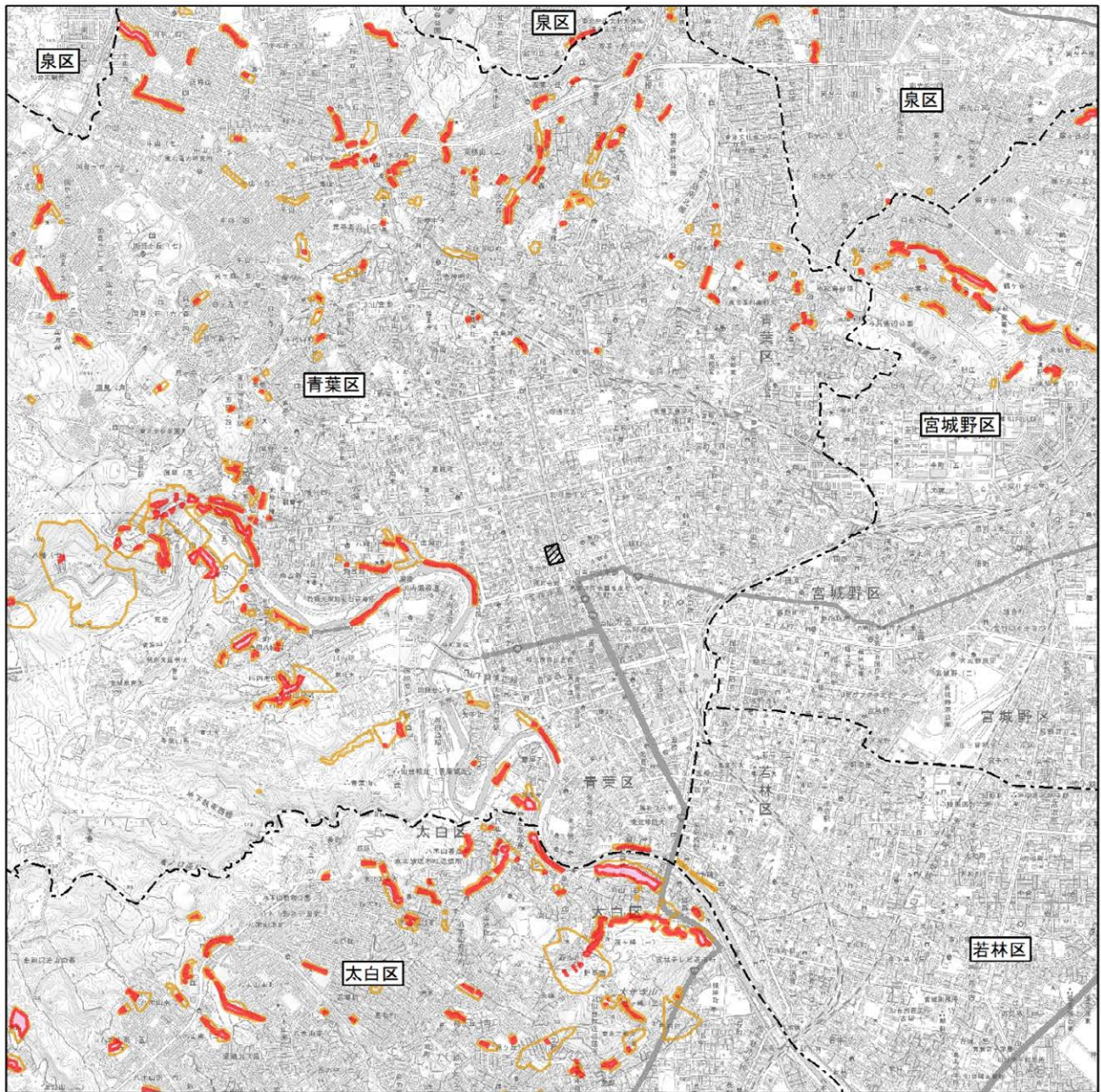
-  計画地
-  区界
-  急傾斜地崩壊危険区域
-  砂防指定地
-  地すべり防止区域

出典：「せんだいくらしのマップ（土砂災害危険地マップ）」
 （仙台市 HP 令和2年6月閲覧）







1:50,000
 0 0.5 1 2 km

図3-8 急傾斜地崩壊危険区域、砂防指定地、地すべり防止区域図



凡例

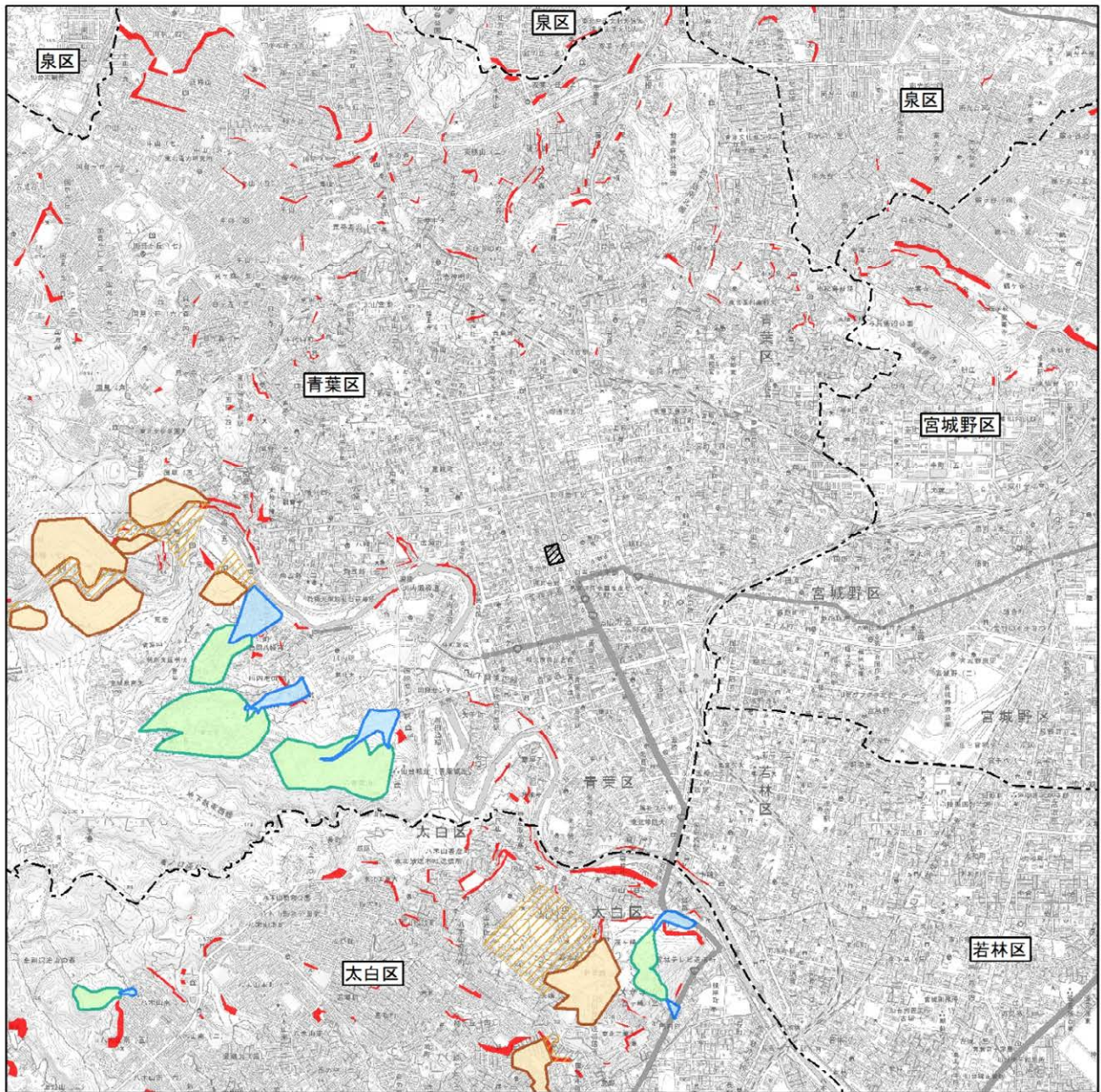
-  計画地
-  区界
-  土砂災害特別警戒区域
-  土砂災害警戒区域

出典：「せんだい暮らしのマップ（土砂災害危険地マップ）」
 （仙台市 HP 令和2年6月閲覧）










1:50,000
 0 0.5 1 2 km

図3-9 土砂災害警戒区域図



凡例

-  計画地
-  区界
-  急傾斜地崩壊危険箇所
-  土石流危険区域
-  土石流危険渓流
-  地すべり危険箇所(地すべり危険箇所)
-  地すべり危険箇所(移動土塊の到達範囲)

出典：「せんだいくらしのマップ（土砂災害危険地マップ）」
 (仙台市 HP 令和 2 年 6 月閲覧)



1:50,000

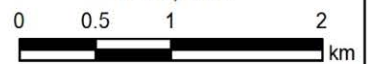


図3-10 土砂災害危険箇所図

3.3 植物

3.3.1 植物相及び注目すべき種の状況

(1) 植物相

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月仙台市）によれば、仙台市の植物相は、船形山山頂付近で見られるキンロバイ、ウスユキソウ、コケモモ等の高山～亜高山帯の植物から、沿岸部で見られるアカガシ、シロダモ等の暖地系の植物まで見られる。また、丘陵地帯は暖温帯と冷温帯の間に位置する中間温帯と呼ばれる領域であり、しかもその領域が広い面積を占めることから、この領域でモミーイヌブナ林の発達がみられ、暖地系の植物、寒地系の植物が混在して見られるほか、山地帯以高（標高約 400m 以上）では、多雪の日本海側の地域に特徴的に見られる日本海側要素と呼ばれるチシマザサ、タニウツギ、ナガハシスミレ等の植物もみられる等、非常に多様な植物相を示している。

(2) 注目すべき植物種

調査範囲内における注目すべき植物種は、表 3-7 に示す基準に基づき選定を行った。その際、計画地が「市街地地域」に位置していることから、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月仙台市）において「保全上重要な種」に挙げられている種のうち、「市街地地域」における減少種を「注目すべき植物種」として抽出した（表 3-8 参照）。

調査範囲内における注目すべき植物種を表 3-9 に示す。

(3) ふるさと種（植物）

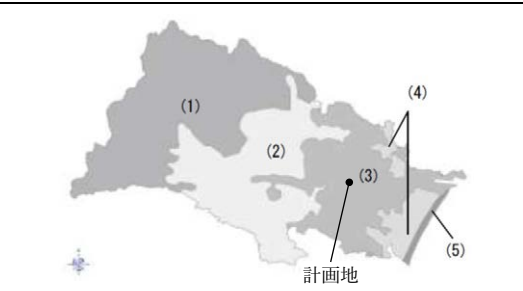
仙台市に生息・生育する植物種のうち、仙台のふるさとの自然を代表する種や、市民に親しんで欲しい種として「ふるさと種」が選定されている植物のふるさと種は表 3-10 に示すとおりである。

表3-7 注目すべき種の選定基準

判断基準		番号・記号	説明	
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種、あるいは生息地・生育地がごく限られている種	
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限等の分布限界となる種	
		3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種	
		4	1, 2, 3 には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている個体群が存在する種など）	
	注目種	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種
			EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種
			A	現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種
			B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種
			C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種
			+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種
			/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい
	・	判断に資する情報がない		
	環境指標種		○	本市の各環境分類における環境を指標する種（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標）
レッドデータ等	国 RL（環境省レッドリスト 2018（平成 30 年環境省）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR+EN	絶滅危惧 I 類	
		CR	絶滅危惧 I A 類	
		EN	絶滅危惧 I B 類	
		VU	絶滅危惧 II 類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
	LP	絶滅のおそれのある 地域個体群		
	県 RL（「宮城県レッドリスト 2016」（平成 28 年宮城県）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR+EN	絶滅危惧 I 類	
		VU	絶滅危惧 II 類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		LP	絶滅のおそれがある地域個体群	
	要	要注目種（隔離分布種、分布北限・南限種、基準産地種、その他）		
	天然記念物、種保存法	特天	文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号）における特別天然記念物	
		天然	文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号）における天然記念物	
		国内	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年 法律第 75 号）における国内希少野生動植物種	
		国際	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年 法律第 75 号）における国際希少野生動植物種	

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）

表3-8 減少種の地域区分

番号	地域区分	
(1)	山地地域	
(2)	西部丘陵地・田園地域	
(3)	市街地地域	
(4)	東部田園地域	
(5)	海浜地域（後背の樹林帯も含む）	

※：計画地は、「(3)市街地地域」に該当する。

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）

表3-9 注目すべき植物種

番号	科名	和名	仙台市における保全上重要な種							レッドデータ等		
			学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存
				山地	田園 西部丘陵地・	市街地	東部田園	海浜				
1	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	1, 2	・	B	C	C	・	—	—	—	—
2	ヒメシダ	ヒメワラビ	2	・	B	B	B	・	—	—	—	—
3	クルミ	オニグルミ		・	B	B	B	・	○	—	—	—
4	ヤナギ	ネコヤナギ	4	・	C	C	・	・	○	—	—	—
5	ブナ	アカガシ	2	・	C	C	C	C	○	—	—	—
6		シラカシ	2	・	C	C	C	/	○	—	—	—
7		ウラジロガシ	2	・	C	C	C	/	—	—	—	—
8	ニレ	エノキ	4	・	B	B	B	・	—	—	—	—
9		ケヤキ	—	C	C	B	B	・	○	—	—	—
10	イラクサ	トキホコリ	1	・	B	B	・	・	—	VU	VU	—
11	タデ	ミゾソバ	—	・	C	B	C	・	○	—	—	—
12	スイレン	オニバス	1	EX	EX	EX	EX	EX	—	VU	EX	—
13	ツバキ	ヤブツバキ	—	・	B	B	B	B	○	—	—	—
14	アブラナ	ナズナ	—	・	B	B	B	・	○	—	—	—
15	ユキノシタ	ユキノシタ	—	・	B	B	・	・	—	—	—	—
16	マメ	タヌキマメ	—	EX	EX	EX	EX	EX	—	—	CR+EN	—
17	ミズキ	アオキ	—	・	C	C	C	C	○	—	—	—
18	ツツジ	ヤマツツジ	—	・	C	C	・	C	○	—	—	—
19	ゴマノハグサ	イヌノフグリ	1	・	・	B	・	・	—	VU	VU	—
20	ゴマノハグサ	カワヂシャ	1	・	・	B	B	・	—	NT	NT	—
21	タヌキモ	フサタヌキモ	1	EX	EX	EX	EX	EX	—	EN	EX	—
22	キク	フジバカマ	—	・	C	C	・	・	—	NT	—	—
23		ノニガナ	—	・	・	C	・	・	—	—	NT	—
24		カワラニガナ	—	・	・	B	・	・	—	NT	VU	—
25		アオヤギバナ	—	・	・	B	・	・	—	—	VU	—
26		エゾタンポポ	—	・	C	B	B	C	○	—	—	—
27	ユリ	ヤマラッキョウ	—	・	・	B	・	・	—	—	VU	—
28		カタクリ	—	・	B	B	B	・	—	—	—	—
29		ニッコウキスゲ	—	・	B	B	B	・	—	—	—	—
30	キンバイザサ	コキンバイザサ	1, 2	EX	EX	EX	EX	EX	—	—	EX	—
31	アヤメ	ヒメシャガ	—	・	B	B	・	・	○	NT	NT	—
32	イネ	ヒナザサ	—	・	B	B	・	・	—	NT	VU	—
33		カゼクサ	—	・	B	C	C	・	○	—	—	—
34		ウキガヤ	—	・	・	C	C	・	—	—	NT	—
35		オギ	—	・	C	C	C	C	○	—	—	—
36		ヨシ	—	・	C	C	C	C	○	—	—	—
37		ツルヨシ	—	・	C	C	C	・	○	—	—	—
38		シバ	—	・	B	B	B	・	○	—	—	—
39		ガマ	ヒメガマ	—	・	C	C	C	・	—	—	—
40	ガマ		—	・	C	C	C	・	○	—	—	—
41	ラン	セッコク	1	EX	EX	EX	EX	EX	—	—	CR+EN	—
42		ヤマトキソウ	—	・	A	A	・	・	—	—	CR+EN	—

※：「—」は該当なしを意味する。

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（植物）総括表」（平成 29 年 3 月 仙台市）から、市街地において何らかの基準に該当する種のみを抽出した。

表3-10 ふるさと種【植物】

No	科名	和名
1	メシダ	クサソテツ (コゴミ)
2	マツ	モミ
3	ブナ	ブナ
4		コナラ
5	ニレ	ケヤキ
6	モクレン	ホオノキ
7	キク	エゾタンポポ
8	ユリ	カタクリ
9	イネ	ススキ
10		ヨシ

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）

3.3.2 植生及び保全上重要な植物の生育地の状況

(1) 植生

調査範囲の現存植生図は、図 3-11 に示すとおりである。

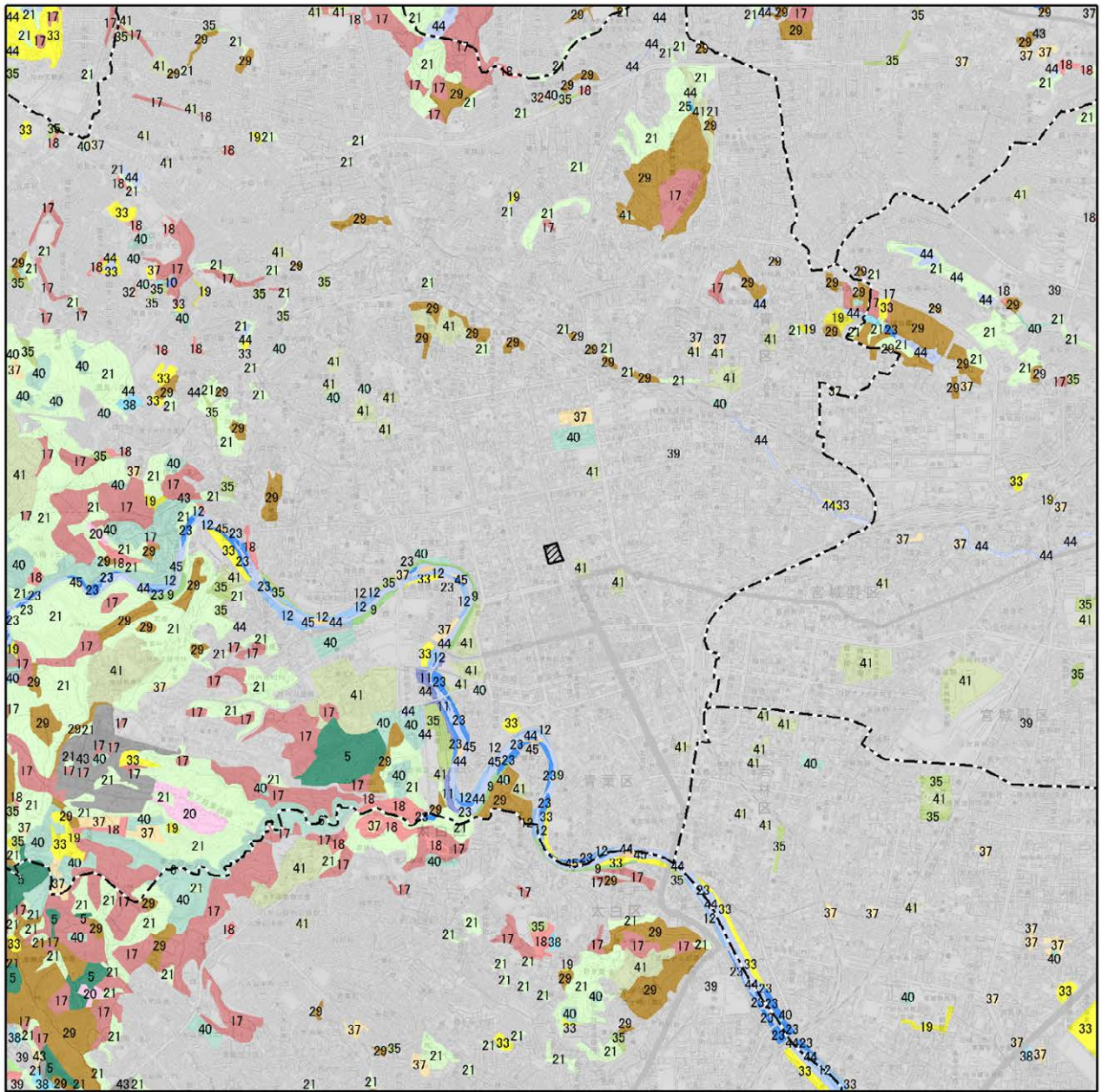
計画地の植生は市街地となっている。計画地の近傍では南東に位置する勾当台公園、錦町公園、北東側の勝山公園が、残存・植栽樹群を持った公園、墓地等が位置している。

計画地の西側の広瀬川沿いは、ハンノキ群落、ヤナギ高木群落、ヤナギ低木群落、ヨシクラス等の植生自然度 9 以上の自然性の高い溪畔林となっている。広瀬川右岸側の青葉山周辺域では、モミ-イヌブナ群集、クリ-コナラ群集、アカマツ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林等の森林が多く広がり、竜ノ口溪谷では植生自然度 10 の自然性の高いイヌシデ-アカシデ群落が分布している。

表3-11 植生自然度区分基準

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツ-トドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリ-ミズナラ群落、クヌギ-コナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典：「平成 27 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 28 年 3 月 仙台市）



凡例

計画地

区界

現存植生図

5. モミーイヌブナ群集

6. イヌシデアカシデ群落

9. ケヤキ群落(Ⅳ)

10. ハンノキ群落(Ⅳ)

11. ヤナギ高木群落(Ⅳ)

12. ヤナギ低木群落(Ⅳ)

15. クリーミズナラ群集

17. アカマツ群落(V)

18. 落葉広葉低木群落

19. ススキ群団(V)

20. 伐採跡地群落(V)

21. クリーコナラ群集

23. ヨシクラス

25. ヒルムシロクラス

29. スギ・ヒノキ・サワラ植林

32. 竹林

33. ゴルフ場・芝地

35. 路傍・空地雑草群落

37. 畑雑草群落

38. 水田雑草群落

39. 市街地

40. 緑の多い住宅地

41. 残存・植栽樹群をもった公園、墓地

43. 造成地

44. 開放水域

45. 自然裸地

出典：

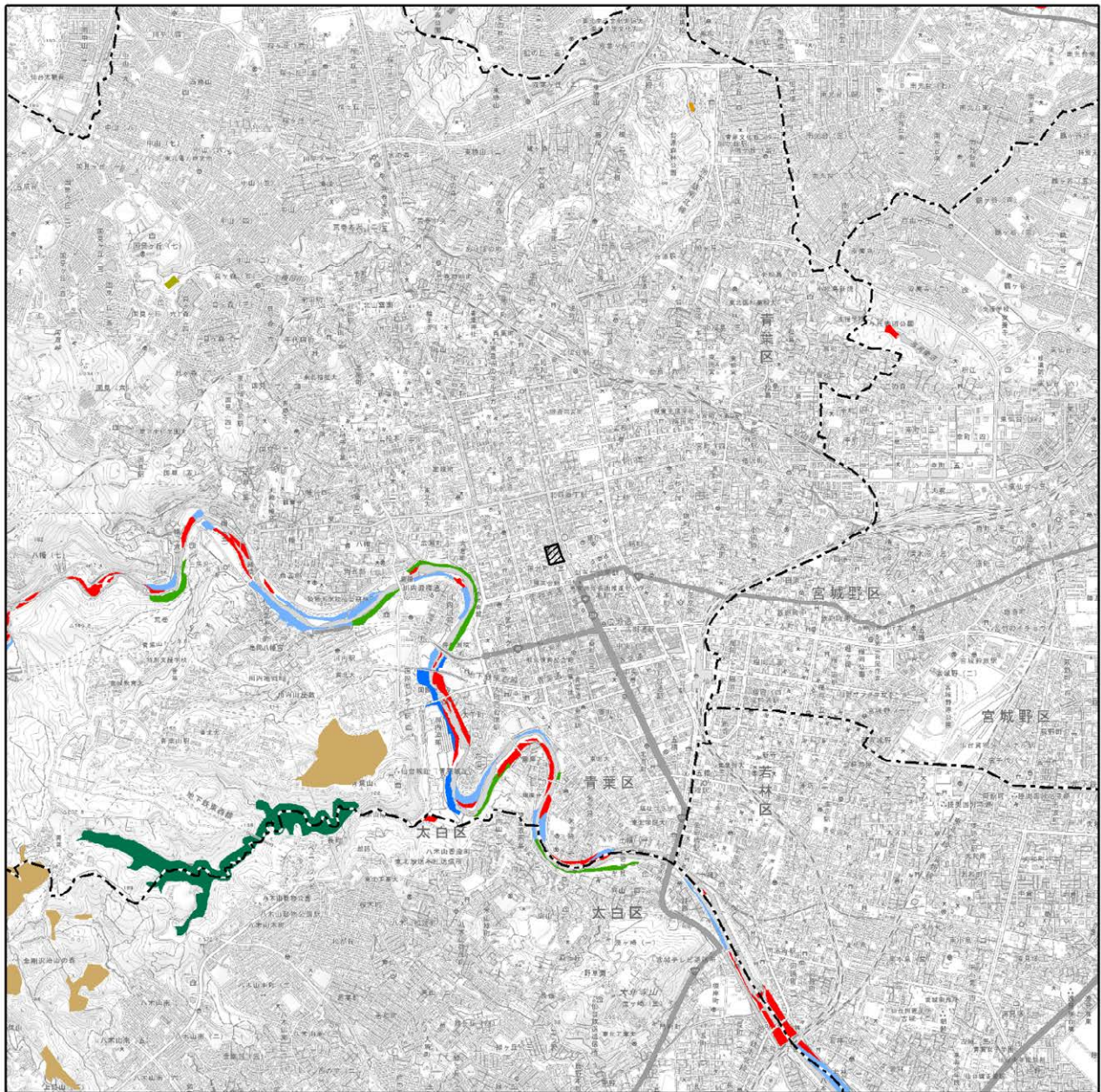
「せんだいぐらしのマップ オープンデータ閲覧 植生図」
(仙台市 HP ダウンロード令和2年6月4日)



1:50,000



図3-11 現存植生図




凡例


 計画地 植生自然度個別値10


 区界


 ヨシクラス


 ヒルムシロクラス


植生自然度個別値9


 モミーイヌブナ群集

 イヌシデアアカシデ群落

 ケヤキ群落(Ⅳ)

 ハンノキ群落(Ⅳ)

 ヤナギ高木群落(Ⅳ)

 ヤナギ低木群落(Ⅳ)

出典：「せんだいくらしのマップ オープンデータ一覧 植生図」
 (仙台市 HP ダウンロード令和2年6月4日)



1:50,000

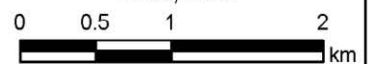


図3-12 自然性の高い植生

(2) 保全上重要な植物の生育地

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）において、表 3-12 に示す選定基準によって植物生育地として重要な地域が選定されている。調査範囲では、表 3-13 及び図 3-13 に示す植物生育地として重要な地域が存在している。

「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」（平成 28 年 3 月 宮城県）によれば、調査範囲には表 3-14 及び図 3-14 に示す、4 箇所の希少な植物群落が挙げられているが、計画地に係る希少な植物群落は存在しない。

表3-12 重要な地域の選定基準

番号	判断理由
1	保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域（動物の繁殖場、集団越冬地となっている地域など）
2	多様な生物相が保存されている地域
3	自然性の高い植生、その他学術上重要な植生が保存されている地域
4	湿地、湧水、岸壁地、地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
5	自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
6	環境教育の場としてふさわしい地域
7	郷土の特色が保存されている地域（里地里山・居久根等）
8	緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域（山地から市街地への連続した緑地、市街地や田園地域に点在する緑地等）
9	海岸や水辺、植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）

表3-13 植物の重要な生育地

番号	名称	概要	判断理由
1	東北大学植物園のモミ林	国指定天然記念物。モミの大木を主体とした針広混交林で、原生林に近い。仙台市街地の西縁に残存し極めて貴重である。青葉城の背後を守る御裏林として保全管理されてきた。カシ類やシロダモ、カラスザンショウ、イイギリといった暖地性植物も混交し、階層ごとに多様な植物がみられる。	1, 2, 3, 6, 7, 8
2	霊屋のスギ林	風致保安林。土砂崩壊防止保安林。伊達家廟に植林されたスギの大木林で、林床には暖地性の植物も多く、北限近くの自然林のあり方を知る上でも貴重な群落。	5, 6, 7
3	佐保山のモミ・イヌブナ林	太白山県自然環境保全地域。優勢なモミやイヌブナをはじめ多様な林木・草本が生育し、仙台地方において最も原生林に近い林相を示す森林（林分）のひとつである。また広い面積を有している点でも貴重である。	3, 5, 6, 7
4	鉤取山学術参考保護林周辺の林	太白山県自然環境保全地域。鉤取山学術参考保護林として保護されているモミ・イヌブナ林を中心に、コナラ・クリ林やアカマツ・コナラ林から構成される森林域。仙台市域の丘陵地の気候的極相林と二次植生を含み、植物群落の遷移過程がみられる。	5, 6, 7
5	名取川・広瀬川中～下流域の河畔植生	広瀬川の清流を守る条例環境保全区域。立地や洪水様態に応じた多様な植生が認められ、ヤナギ類の群落を中心に、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。市民の憩いの場としても極めて貴重。	8, 9
6	台原森林公園・真美沢公園の里地・里山植生	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地の内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7, 8
7	与兵衛沼周辺の里地・里山植生	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地の内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7, 8
8	茂ヶ崎・愛宕神社周辺の里地・里山植生	市街地南部の段丘に残された、まとまりのある緑地。歴史的な建造物や仙台市野草園を含み、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、市街地にも近く、市街地内部のとび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	7, 8
9	竜ノ口溪谷の自然林	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。広瀬川中流域。高さおよそ70mに及ぶ絶壁が連なる狭い溪谷で、両岸に残存する大木と独特の植物相が残る。	3
10	榴ヶ岡・新寺・木下地区の緑地	市街地内部に残された、段丘に沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7, 8
11	八幡・国見・放山地区の緑地	市街地の内部の段丘に残された、地滑りに沿った緑地と社寺林景観からなるまとまりのある緑地として重要。	7, 8
12	奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植生	市街地の南部に位置し、野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。また、青葉山は、狭い地域内に800種以上の植物が自生し、里山の自然に親しむ場として活用されており、環境省が全国で500箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	7, 8
13	丸田沢緑地（水の森公園）	丸田沢緑地環境保全地域。仙台藩の御林として伐採が禁じられた。市街地の中央に位置し、市街地に残された、池沼を含む緑地・公園である。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、とび石型生態系回廊（生態系コリドー）として重要。モミの大木を含むアカマツ自然林やコナラ等の二次林、スギ植林が比較的広い面積で残存し、貴重。	5, 6, 7
14	葛岡墓園・荒巻の緑地	権現森緑地環境保全地域。仙台市南東部で市街地に隣接する緑地、公園、墓園で、丘陵地域を象徴する里地・里山が残される。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、そして奥羽山地山麓部と、青葉山や広瀬川を繋ぐ緑地、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	6, 7, 8

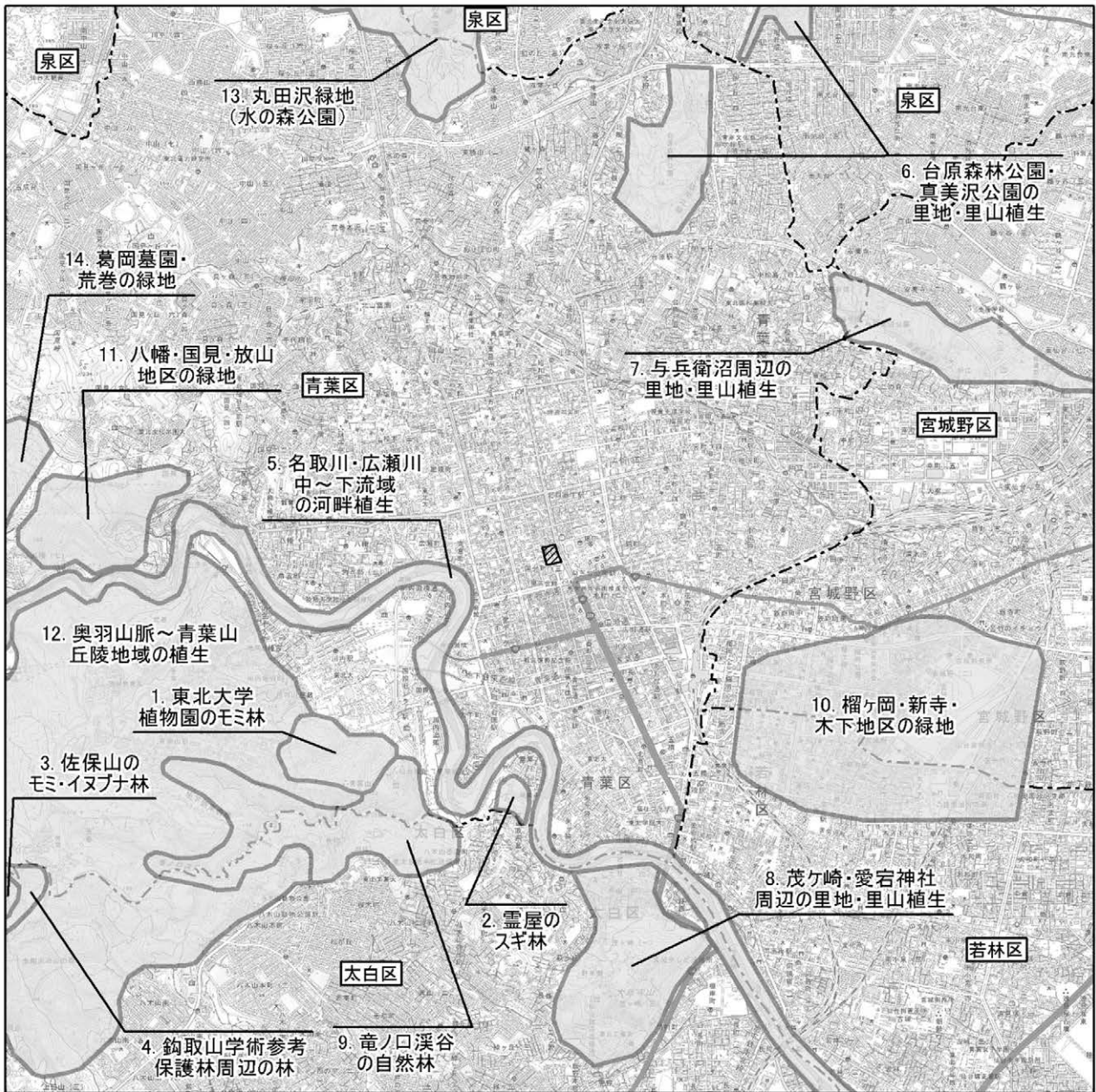
出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成29年3月 仙台市）

表3-14 希少な植物群落




番号	名称	面積(ha)	指定状況
1	佐保山のモミ・イヌブナ群落 ^{※1} (鈎取山モミ)	9.08	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定植物群落 ・ 植物群落保護林 ・ 野鳥の森
2	霊屋のスギ植林	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定植物群落 ・ 仙台市保全緑地
3	東北大学大学院理学研究科附属植物園の 植物群落	45	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定植物群落 ・ 国天然記念物 ・ 仙台市保全緑地 ・ 広瀬川の清流を守る条例特別保全区域
4	丸田沢の植物群落	124	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県緑地環境保全地域

※1：「佐保山のモミ・イヌブナ群落」は、森林法に基づく植物群落保護林（鈎取山モミ）としての保護林指定を受けていたが、平成27年の保護林制度の改正により、「植物群落保護林」から「希少個体群保護林」に指定区分が変更された。

出典：「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016」（平成28年3月 宮城県）



凡例

-  計画地
-  区界
-  植物の重要な生育地

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」
 (平成 29 年 3 月 仙台市)

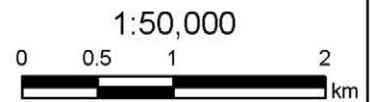
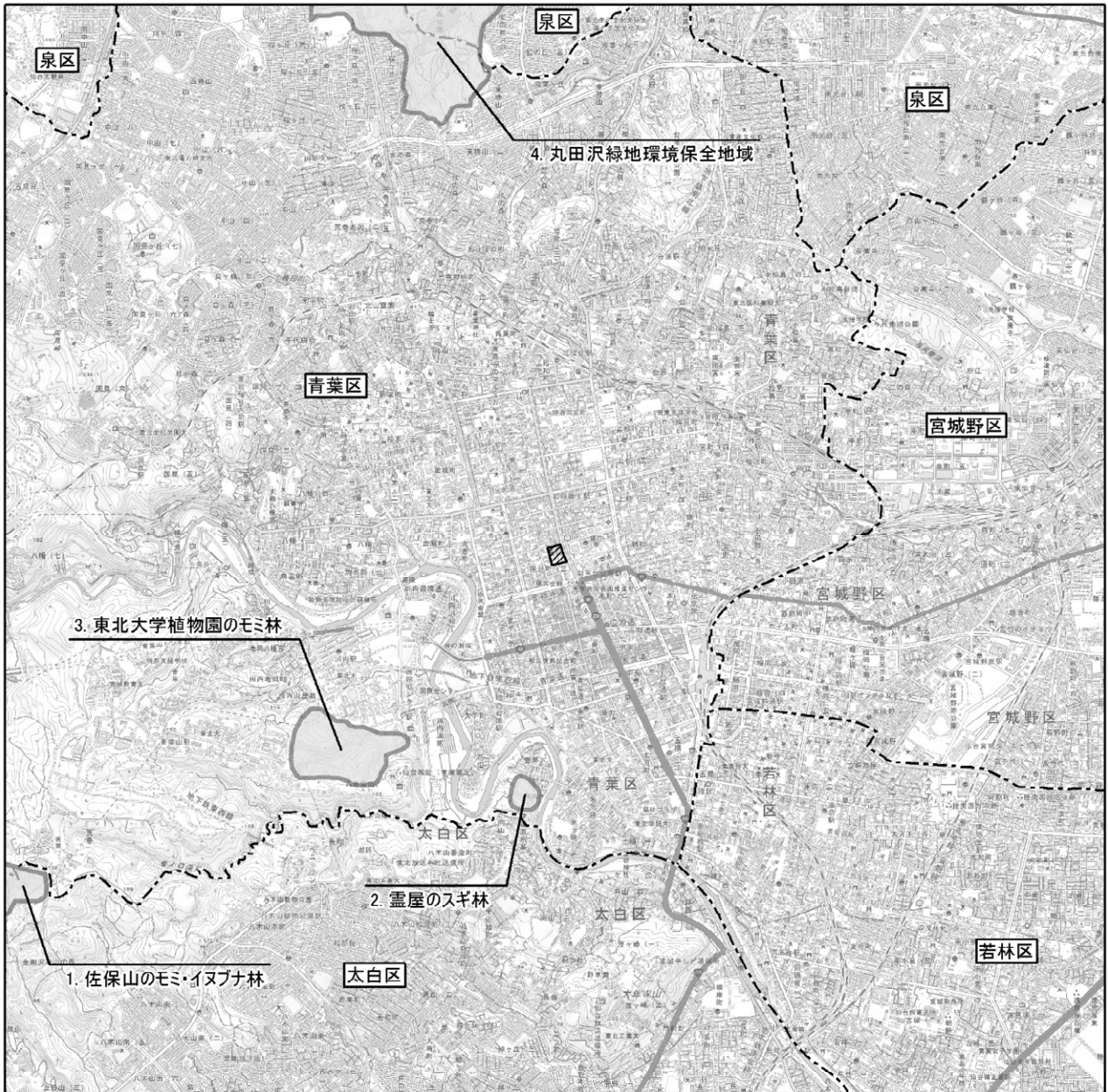





図3-13 保全上重要な植物の生育地



凡例

-  計画地
-  区界
-  希少な植物群落

出典：「RED DATA BOOK MIYAGI 2016 宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」
 (平成 28 年 3 月 宮城県)

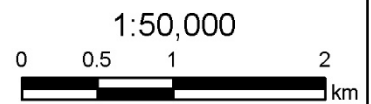


図3-14 希少な植物群落

(3) 保存樹木、保存樹林、保存緑地

調査範囲における仙台市の「杜の都の環境をつくる条例」に基づく「保存樹木」等の指定状況は、表3-15～表3-17、並びに図3-15に示すとおりである。計画地に最も近い保存樹木は計画地東側に位置する宮城県庁敷地内の「県庁のひまらやすぎ」、「県庁のさんごじゅ」となっている。仙台市における「保存樹林」は、計画地近傍では「定禅寺通（ケヤキ街路樹）」「勾当台公園（ヒマラヤシーダ林）」「勾当台通外記丁線、定禅寺通県庁前線（イチョウ並木）」が指定されている。また、計画地に最も近い保存緑地は、北山保存緑地となっている。

表3-15 仙台市の保存樹木の指定状況（1/2）

番号	名称	樹種	樹齢	樹高	幹周
1	瞑想の松	クロマツ	620年	18.6m	3.4m
2	対がん協会のけやき	ケヤキ	200年	19.0m	3.3m
3	東昌寺の丸実がや	マルミガヤ	500年	18.3m	5.7m
4	東昌寺の赤松	アカマツ	350年	19.1m	3.1m
5	東昌寺のこうようざん	コウヨウザン	150年	13.6m	1.8m
6	資福寺の七香木蓮	ハクモクレン	320年	4.5m	株立
7	資福寺の五葉松	ゴヨウマツ	200年	12.2m	1.4m
8	資福寺のこうようざん	コウヨウザン	200年	25.6m	2.4m
9	秀林寺のさつき	サツキ	340年	1.5m	株立
10	荘厳寺の赤松	アカマツ	350年	15.6m	3.4m
11	荘厳寺のもみじ	イロハモミジ	200年	12.0m	3.2m
12	称念寺のきやらぼく	キャラボク	300年	4.2m	株立
13	称念寺のかりん	カリン	320年	9.5m	1.1m
14	称念寺のいちよう（2本）	イチョウ	300年	17.6m, 15.4m	4.7m, 4.2m
15	称念寺のたらよう	タラヨウ	300年	17.3m	3.2m
16	大願寺のたらよう	タラヨウ	250年	9.3m	株立
17	子平町の藤	フジ	400年	棚作り	株立
18	正圓寺の赤松	アカマツ	360年	19.7m	2.4m
19	八幡町のたぶのき	タブノキ	300年	25.0m	4.3m
20	八幡町のかや	カヤ	200年	18.9m	2.6m
21	東北大学医学部のいすのき	イスノキ	220年	12.4m	1.9m
22	柏木の臥竜梅	ウメ	145年	7.8m	0.9m
23	県庁のひまらやすぎ	ヒマラヤスギ	70年	11.1m	1.4m
24	県庁のさんごじゅ	サンゴジュ	80年	6.5m	0.5m
25	東六番丁小学校の桜	ヒガンザクラ	300年	11.0m	4.6m
26	千手観音堂のいちよう	イチョウ	200年	24.6m	3.3m
27	稲船神社のもみじ	モミジ	200年	18.0m	2.7m
28	銀杏町のいちよう	イチョウ	1200年	32.0m	7.9m
29	宮城野中学校の朝鮮松	チョウセンゴヨウマツ	67年	14.5m	1.5m
30	榴岡公園のしだれざくら	シダレザクラ	280年	20.0m	2.5m
31	榴岡公園のさいかち	サイカチ	200年	15.5m	4.6m
32	裁松院のしらかし	シラカシ	1000年	13.0m	1.9m
33	広瀬町の千年杉	スギ	1000年	22.4m	5.6m
34	広瀬町のえのき	エノキ	350年	17.8m	2.8m
35	西公園のいちよう	イチョウ	250年	18.8m	4.1m
36	西公園の臥竜梅	ウメ	200年	4.5m	1.5m
37	裁判所のひまらやすぎ	ヒマラヤスギ	80年	24.0m	3.5m
38	裁判所のかえで	イロハモミジ	200年	10.5m	2.0m
39	裁判所のしらかし	シラカシ	200年	11.4m	2.1m
40	裁判所のえどひがん桜	エドヒガン	250年	14.5m	3.1m
41	裁判所のこうやまき（2本）	コウヤマキ	300年	14.0m, 15.2m	2.5m, 2.4m
42	裁判所のきやらぼく	キャラボク	200年	2.2m	株立
43	東北大学旧理学部のメタセコイヤ	メタセコイヤ	27年	34.0m	4.2m
44	東北大学旧理学部のはんてんぼく	ハンテンボク	75年	22.0m	2.1m
45	東北大学旧理学部のすずかけのき	スズカケノキ	200年	30.0m	3.4m
46	東北大学金研の黒松	クロマツ	200年	7.5m	1.2m
47	東北大学のいちよう	イチョウ	200年	37.0m	5.3m
48	正楽寺のいちよう	イチョウ	300年	27.0m	4.4m
49	大林寺のかや	カヤ	250年	18.2m	3.9m
50	道仁寺のたぶのき	タブノキ	200年	15.6m	2.8m

出典：「杜の都の名木・古木」（平成29年3月 仙台市）

表3-15 仙台市の保存樹木の指定状況 (2/2)

番号	名称	樹種	樹齢	樹高	幹周
51	薬師堂のあらかし	アラカシ	200年	15.0m	2.7m
52	薬師堂のいちょう	イチョウ	350年	30.0m	4.1m
53	聖ウルスラ学院のけやき	ケヤキ	250年	19.0m	4.5m
54	信夫神社のいちょう	イチョウ	350年	25.4m	4.3m
55	大荒神社のいちょう	イチョウ	320年	30.0m	4.1m
56	愛宕神社の夫婦杉 (2本)	スギ	350年	19.6m, 22.6m	3.7m, 4.6m
57	虚空蔵堂のいちょう	イチョウ	250年	30.8m	3.9m
58	経ヶ峯のこうやまき (2本)	コウヤマキ	300年	31.0m, 31.0m	3.0m, 3.5m
59	瑞鳳寺のひがんだくら	ヒガンザクラ	330年	20.0m	3.5m
60	大年寺山のうば杉	スギ	500年	27.4m	5.9m
61	根岸のらくうしょう	ラクウショウ	100年	26.0m	3.3m
62	古城の黒松	クロマツ	330年	4.0m	1.7m
63	古城の臥龍梅	ウメ	360年	6.3m	0.7m
64	称覚寺のいちょう	イチョウ	200年	15.0m	4.0m
65	木町通小学校のいちょう (2本)	イチョウ	100年	25.1m, 22.7m	3.5m, 3.2m
66	仙岳院の笠松	クロマツ	310年	3.5m	1.1m
67	通町のけやき	ケヤキ	500年	17.3m	3.3m
68	覚範寺のひよくひば	ヒヨクヒバ	250年	24.0m	3.4m
69	文殊菩薩堂のひがんだくら	ヒガンザクラ	150年	13.0m	2.7m
70	三居沢の赤松	アカマツ	400年	28.0m	4.3m
71	八幡町の五葉松	ゴヨウマツ	300年	24.4m	2.9m
72	愚鈍院のこつぶがや	コツブガヤ	250年	8.8m	2.4m
73	孝勝寺の黒松	クロマツ	310年	20.0m	2.6m
74	満福寺の黒松	クロマツ	300年	23.8m	3.1m
75	旅立稲荷神社のけやき	ケヤキ	200年	26.6m	4.2m
76	正楽寺のくすのき	クスノキ	200年	17.0m	4.3m
77	八幡のしだれざくら	シダレザクラ	370年	18.0m	2.7m
78	旧検察庁官舎のさるすべり	サルスベリ	300年	10.8m	1.3m
79	旧検察庁官舎のしだれざくら	シダレザクラ	300年	15.4m	3.7m
80	若林区役所のしだれざくら	シダレザクラ	390年	10m	2.9m
81	木町のけやき	ケヤキ	300年	28.8m	4.8m
82	輪王寺のだいおうしょう	ダイオウショウ	100年	21.0m	2.3m
83	輪王寺のこうようざん	コウヨウザン	100年	25.4m	2.5m
84	五城中学校のいろはもみじ	イロハモミジ	300年	12.5m	2.6m
85	道仁寺のえどひがん桜	エドヒガン	200年	15.0m	3.2m
86	道仁寺のしだれざくら	シダレザクラ	200年	10.8m	2.3m
87	道仁寺のひがんだくら	ヒガンザクラ	200年	12.5m	2.8m
88	充国寺の黒松	クロマツ	395年	7.3m	1.5m
89	大崎八幡宮のこうやまき	コウヤマキ	390年	27.0m	2.9m
90	旭ヶ丘の一本松	アカマツ	200年	11.0m	2.8m
91	榴岡天満宮のしらかし	シラカシ	300年	13.0m	3.1m
92	羽黒神社のえどひがん桜	エドヒガン	370年	18.2m	3.0m
93	羽黒神社のえどひがん桜	エドヒガン	370年	18.2m	2.8m
94	宮城野八幡神社のけやき	ケヤキ	200年	33.0m	4.0m
95	愛宕神社のえどひがん桜	エドヒガン	350年	11.0m	2.5m
96	箱石神社のいちょう	イチョウ	250年	19.0m	3.6m
97	聖ウルスラ学院の臥龍梅	ウメ	285年	1.6m	1.6m
98	聖ウルスラ学院法領塚古墳のけやき	ケヤキ	150年	25.8m	4.3m
99	羽黒神社の赤松	アカマツ	120年	13.3m	1.8m
100	羽黒神社の赤松	アカマツ	120年	15.0m	1.6m
101	上杉の桜	ソメイヨシノ	100年	12.0m	2.1m

出典：「杜の都の名木・古木」(平成29年3月 仙台市)

表3-16 仙台市の保存樹林の指定状況

番号	所在地	樹種	指定時期
1	青葉通	ケヤキ街路樹	一次指定（昭和50年6月5日指定）
2	定禅寺通	ケヤキ街路樹	
3	勾当台公園	ヒマラヤシーダ林	
4	西公園	ヒマラヤシーダ林	
5	勾当台通外記丁線、定禅寺通県庁前線	イチョウ並木	
6	東十番丁通（榴岡駅前通り）	イチョウ並木	
7	広瀬町	シラカシ生垣	
8	青葉区子平町	屋敷林	四次指定（平成26年12月5日指定）
9	青葉区上杉	屋敷林	五次指定（平成29年11月15日指定）

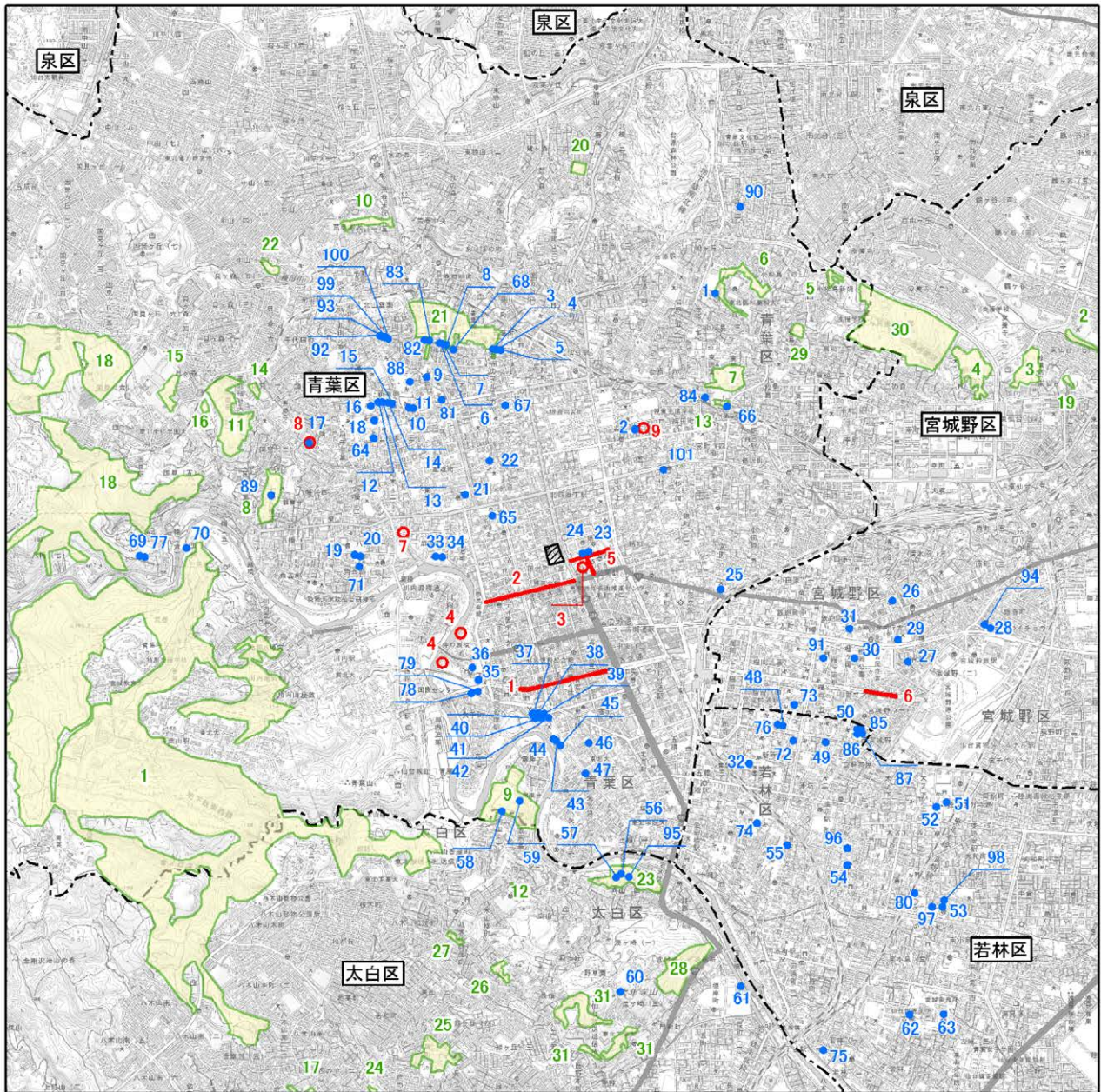
出典：「緑の保全/保存樹林」（仙台市HP 令和2年6月閲覧）

<http://www.city.sendai.jp/ryokuchihozen/kurashi/shizen/midori/mesho/hozen/index.html>







表3-17 仙台市の保存緑地の指定状況

番号	名称	所在地	面積(ha)	指定年月日
1	青葉山	青葉区荒巻字青葉ほか	356.3	昭和50年6月5日
2	西山	宮城野区燕沢二丁目	1.65	昭和50年6月5日
3	安養寺	宮城野区東仙台六丁目	4.48	昭和50年6月5日
4	木皿山	宮城野区柗江	5.76	昭和50年6月5日
5	奥津森	青葉区小松島新堤	0.51	昭和50年6月5日
6	瞑想の森	青葉区小松島四丁目	4.18	昭和50年6月5日
7	東照宮	青葉区東照宮一丁目	3.73	昭和50年6月5日
8	大崎八幡	青葉区八幡四丁目	4.26	昭和50年6月5日
9	霊屋	青葉区霊屋下	8.35	昭和50年6月5日
10	北川山	青葉区荒巻本沢二丁目ほか	3.16	昭和50年6月5日
11	国見四丁目I	青葉区国見四丁目	9.36	昭和50年6月5日
12	向山高校	太白区八木山緑町	0.55	昭和50年6月5日
13	仙岳院	青葉区東照宮一丁目	0.69	昭和50年6月5日
14	一の坂	青葉区国見一丁目	0.49	昭和50年6月5日
15	狐沢山	青葉区国見六丁目ほか	3.74	昭和50年6月5日
16	国見四丁目II	青葉区国見四丁目	0.44	昭和50年6月5日
17	金剛沢	太白区金剛沢一丁目	2.35	昭和50年6月5日
18	放山	青葉区荒巻字仁田谷地ほか	99.91	昭和50年6月5日
19	ラ・サールホーム	宮城野区東仙台六丁目	0.35	昭和51年10月20日
20	藤松	青葉区鷲ヶ森一丁目	1.04	昭和51年10月20日
21	北山	青葉区青葉町ほか	14.6	昭和51年10月20日
22	村上山	青葉区中山二丁目	0.61	昭和51年10月20日
23	愛宕山	太白区向山四丁目	4.25	昭和51年10月20日
24	西の平	太白区西の平二丁目	0.65	昭和51年10月20日
25	橋本農園	太白区大罫町	4.63	昭和51年10月20日
26	あびこの杜	太白区八木山弥生町	0.95	昭和51年10月20日
27	大泉山II	太白区八木山弥生町	0.56	昭和51年10月20日
28	大年寺山	太白区茂ヶ崎四丁目	7.43	昭和51年10月20日
29	小松島二丁目	青葉区小松島二丁目	0.63	昭和51年10月20日
30	与兵衛沼	青葉区蟹沢ほか	24.89	昭和53年1月27日
31	二ツ沢	太白区二ツ沢ほか	7.24	平成6年2月25日

出典：「仙台市公園・緑地等配置図」（平成31年4月 仙台市）



凡例

-  計画地
-  区界
-  保存樹木
-  保存樹林(点)
-  保存樹林(線)
-  保存緑地

出典：

「杜の都の名木・古木」(平成 29 年 3 月 仙台市)
 「緑の保全/保存樹林」(仙台市 HP 令和 2 年 6 月閲覧)
<http://www.city.sendai.jp/ryokuchihozen/kurashi/shizen/midori/mesho/hozen/index.html>
 「仙台市公園・緑地等配置図」(平成 31 年 4 月 仙台市)

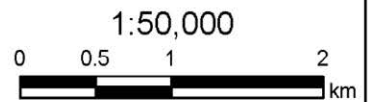


図3-15 保存樹木等位置図

3.4 動物

3.4.1 動物相及び注目すべき種の状況

(1) 動物相

調査対象範囲の動物相は、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月仙台市）によると、計画地の位置する市街地や田園地域において「人の生活空間の拡大や各種開発事業により、動物の良好な生息環境が減少しているが、公園や残された緑地等が、タヌキ、イタチ、カワセミ、アオダイショウ、ミヤマクワガタ等多くの動物にとって貴重な生息場所となっており、これらの緑地を保全するとともに、周囲の丘陵地、田園地域との連続性に配慮した緑の創出を進める必要がある」とされている。

(2) 注目すべき動物種

調査範囲内における「注目すべき動物種」について、表 3-7 に示す基準に基づき選定を行った。その際、計画地が「市街地地域」に位置していることから、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月仙台市）において「保全上重要な種」に挙げられている種のうち、「市街地地域」における減少種を「注目すべき動物種」として抽出した（表 3-8 参照）。調査範囲における注目すべき動物種数は表 3-18、分類ごとの注目すべき動物種は表 3-19～表 3-24 に示すとおりである。

表3-18 注目すべき動物種数

項目	目数	科数	種数	仙台市における保全上重要な種							レッドデータ等		
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存
					山地	地・田園	西部丘陵	市街地	東部田園				
哺乳類	4	6	9	5	8	9	9	5	4	9	1	2	0
鳥類	14	29	64	44	36	57	64	53	44	40	20	24	5
両生類	2	6	11	1	11	11	11	10	11	8	4	5	0
爬虫類	1	5	8	2	5	7	8	6	3	6	0	1	0
魚類	7	10	15	7	12	14	15	15	14	8	13	10	0
昆虫類	5	18	26	19	5	20	26	15	3	11	11	17	0
計	33	74	133	78	77	118	133	104	79	82	49	59	5

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類、昆虫類）」（平成 29 年 3 月 仙台市）
 ※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成 30 年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3-19 注目すべき動物種【哺乳類】

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種							レッドデータ等		
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国RL	県RDB	天記・種保存
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
1	モグラ目(食虫目)	トガリネズミ科	ホンシュウジネズミ	—	+	C	B	C	・	○	—	—	—
2	コウモリ目(翼手目)	キクガシラコウモリ科	ニホンキクガシラコウモリ	1	C	C	C	・	・	○	—	—	—
3			ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ	1, 4	C	C	C	・	・	○	—	—
4		ヤマコウモリ		1, 4	C	C	C	C	C	○	VU	VU	—
5		ヒナコウモリ		1, 4	C	C	C	・	C	○	—	VU	—
6		ネズミ目(齧歯目)	リス科	ムササビ	1, 4	・	C	C	・	・	○	—	—
7	ネズミ科		ハタネズミ	—	+	C	C	C	C	○	—	—	—
8			ヒメネズミ	—	+	+	+	/	・	○	—	—	—
9	ネコ目(食肉目)	イタチ科	イタチ	—	C	C	C	C	C	○	—	—	—
	4目	6科	9種	5	8	9	9	5	4	9	1	2	0

出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種(哺乳類)」(平成29年3月 仙台市)

※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成30年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3-20 (1) 注目すべき動物種【鳥類】 (1/2)

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種							レッドデータ等		
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国RL	県RDB	天記・種保存
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
1	キジ目	キジ科	ウズラ	1, 4	—	A	A	A	A	—	VU	CR+EN	—
2	ツル目	クイナ科	クイナ	1, 4	・	C	A	B	B	—	—	YO	—
3			ヒクイナ	1, 4	・	C	B	B	B	—	NT	CR+EN	—
4			バン	1, 4	・	C	B	C	C	○	—	—	—
5	カモ目	カモ科	マガン	1, 4	・	・	A	B	B	—	NT	—	天記
6			オシドリ	1, 4	+	C	B	・	・	—	DD	—	—
7	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	—	・	C	B	C	C	○	—	—	—
8	ペリカン目	サギ科	サンカノゴイ	1	・	B	A	B	B	—	EN	NT	—
9			ヨシゴイ	1, 4	・	C	B	C	C	○	NT	NT	—
10			アマサギ	4	・	・	A	+	・	○	—	—	—
11			チュウサギ	1, 2, 4	・	C	A	C	C	—	NT	—	—
12			コサギ	—	・	C	B	+	+	○	—	—	—
13	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス	1, 4	+	+	C	C	C	○	—	—	—
14			カッコウ	1, 4	C	C	B	C	C	○	—	—	—
15	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	1, 4	+	C	B	・	・	○	NT	NT	—
16	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	1, 4	C	C	B	B	・	○	—	—	—
17		シギ科	オオジシギ	1, 4	B	B	A	B	B	—	NT	NT	—
18		カモメ科	コアジサシ	1, 2, 4	・	・	A	B	B	—	VU	VU	国際
19	タカ目	タカ科	オジロワン	1, 2, 4	・	B	B	B	B	—	VU	VU	天記, 国内, 国際
20			チュウヒ	1, 4	・	C	B	C	C	○	EN	NT	—
21			ツミ	1, 4	C	C	C	C	C	—	—	DD	—
22			ハイタカ	1, 4	C	C	C	C	C	—	NT	NT	—
23			オオタカ	1, 4	C	C	B	B	C	○	NT	NT	国内
24			サシバ	1, 4	C	C	A	C	C	—	VU	VU	—
25			ノスリ	—	+	C	C	C	・	○	—	—	—

表 3-20 (2) 注目すべき動物種【鳥類】(2/2)

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種							レッドデータ等		
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
26	フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク	1	C	C	C	B	B	—	—	YO	—
27			フクロウ	1	C	C	B	B	C	○	—	—	—
28			アオバズク	1	・	C	B	B	B	○	—	VU	—
29			コミミズク	1	・	B	A	B	B	○	—	YO	—
30	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	1, 4	・	C	C	C	・	○	—	—	—
31			ヤマセミ	1, 4	・	・	B	・	・	○	—	YO	—
32	キツツキ目	キツツキ科	アカゲラ	—	+	C	B	C	C	—	—	—	—
33			アオゲラ	—	+	C	B	C	C	○	—	—	—
34	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	1, 4	・	C	B	C	B	—	—	—	—
35			チゴハヤブサ	—	・	・	B	B	・	—	—	YO	—
36			ハヤブサ	1, 4	C	B	B	B	B	—	VU	NT	国内, 国際
37	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	—	C	C	B	C	C	—	VU	VU	—
38		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	1	・	C	B	・	・	○	—	—	—
39		モズ科	チゴモズ	1, 4	・	B	B	B	・	—	CR	CR+EN	—
40			モズ	1	+	C	B	C	C	○	—	—	—
41			アカモズ	1, 4	・	B	B	B	B	—	EN	CR+EN	—
42		ヒバリ科	ヒバリ	—	・	C	B	C	C	○	—	—	—
43		ツバメ科	ツバメ	—	・	C	C	C	・	○	—	—	—
44		ウグイス科	ウグイス	1, 4	+	+	C	C	C	○	—	—	—
45		ムシクイ科	センダイムシクイ	—	+	C	B	・	・	○	—	—	—
46		ヨシキリ科	オオヨシキリ	1, 4	・	C	B	C	C	○	—	—	—
47			コヨシキリ	1, 4	・	C	A	C	C	○	—	—	—
48		セッカ科	セッカ	1, 4	・	C	B	C	C	○	—	—	—
49		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	—	+	・	B	・	・	○	—	—	—
50		カワガラス科	カワガラス	—	+	C	B	・	・	○	—	—	—
51		ヒタキ科	トラツグミ	—	+	C	B	C	C	○	—	—	—
52			クロツグミ	1, 4	+	C	B	C	C	○	—	—	—
53	シロハラ		—	+	C	B	・	・	○	—	—	—	
54	コルリ		1, 4	+	C	B	C	C	○	—	—	—	
55	ルリビタキ		—	+	C	C	C	C	—	—	—	—	
56	コサメビタキ		—	・	・	B	・	・	○	—	—	—	
57	キビタキ		—	+	C	B	・	・	○	—	—	—	
58	オオルリ		1, 4	+	C	C	C	C	○	—	—	—	
59	セキレイ科	キセキレイ	1, 4	+	C	C	C	・	○	—	—	—	
60		セグロセキレイ	4	C	C	C	C	・	—	—	—	—	
61	ホオジロ科	ホオジロ	—	+	+	B	C	C	○	—	—	—	
62		ホオアカ	—	B	C	A	C	B	○	—	—	—	
63		ノジコ	1, 4	C	C	B	・	・	—	NT	YO	—	
64		アオジ	—	C	C	C	C	C	○	—	—	—	
	14 目	29 科	64 種	44	36	57	64	53	44	40	20	24	5

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（鳥類）」（平成 29 年 3 月 仙台市）

※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成 30 年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3-21 注目すべき動物種【両生類】

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種						レッドデータ等				
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存	
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜					
1	有尾目	サンショウウオ科	トウホクサンショウウオ	4	+	C	B	/	/	○	NT	NT	-	
2			クロサンショウウオ	-	+	C	A	/	/	○	NT	LP	-	
3		イモリ科	アカハライモリ	-	+	C	A	C	/	○	NT	LP	-	
4	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	-	+	C	B	C	/	-	-	-	-	
5		アマガエル科	ニホンアマガエル	-	+	+	+	+	+	○	-	-	-	
6		アカガエル科	タゴガエル	-	+	C	A	/	/	-	-	-	-	
7			ニホンアカガエル	-	+	+	A	C	/	-	-	-	-	
8			トウキョウダルマガエル	-	C	C	A	C	/	○	NT	NT	-	
9			ツチガエル	-	+	C	A	・	/	○	-	NT	-	
10		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	-	+	+	B	C	/	○	-	-	-	
11			カジカガエル	-	+	+	B	C	/	○	-	-	-	
		2目	6科	11種	1	11	11	11	10	11	8	4	5	0

出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（両生類）」（平成29年3月 仙台市）
 ※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成30年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3-22 注目すべき動物種【爬虫類】

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種						レッドデータ等			
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
1	有鱗目	トカゲ科	ヒガシニホントカゲ	1	・	C	A	・	・	○	-	-	-
2		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	-	+	+	C	C	・	○	-	-	-
3		タカチホヘビ科	タカチホヘビ	1	・	・	A	・	・	-	-	DD	-
4		ナミヘビ科	アオダイショウ	-	+	+	B	C	C	○	-	-	-
5			ジムグリ	-	+	+	B	C	C	○	-	-	-
6			ヒバカリ	-	C	C	C	C	B	○	-	-	-
7			ヤマカガシ	-	・	+	A	C	・	○	-	-	-
8		クサリヘビ科	ニホンマムシ	-	C	C	A	C	・	-	-	-	-
	1目	5科	8種	2	5	7	8	6	3	6	0	1	0

出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（爬虫類）」（平成29年3月 仙台市）
 ※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成30年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3-23 注目すべき動物種【魚類】

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種						レッドデータ等			
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜				
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ類	1	C	B	C	C	/	—	VU	NT	—
2	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	1	・	B	B	C	C	○	EN	NT	—
3	コイ目	コイ科	キンブナ	—	+	+	C	C	・	—	VU	NT※	—
4			タナゴ	—	EX	EX	EX	EX	EX	—	EN	CR+EN	—
5			アカヒレタビラ	—	EX	EX	EX	EX	EX	—	EN	CR+EN	—
6			ゼニタナゴ	—	EW	EW	EW	EW	EW	—	CR	CR+EN	—
7			ウグイ	—	+	+	+	+	+	○	—	—	—
8			フクドジョウ科	ホトケドジョウ	1	+	+	C	C	/	○	EN	NT
9	ナマズ目	ギギ科	ギバチ	1	・	+	+	C	/	—	VU	NT	—
10	サケ目	アユ科	アユ	—	/	+	+	+	C	○	—	—	—
11		サケ科	サクラマス	1	+	・	C	C	C	○	NT	NT	—
12			サクラマス(ヤマメ)	—	+	+	+	+	/	○	NT	—	—
13	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	1	・	A	A	C	C	○	VU	NT	—
14	スズキ目	カジカ科	カジカ	—	+	+	B	/	/	○	NT	—	—
15		ハゼ科	スミウギゴリ	1	/	/	+	+	+	—	LP	—	—
	7 目	10 科	15 種	7	12	14	15	15	14	8	13	10	0

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種（魚類）」（平成 29 年 3 月 仙台市）

※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成 30 年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

表3-24 注目すべき動物種【昆虫類】

番号	目名	科名	種名	仙台市における保全上重要な種							レッドデータ等			
				学術上重要な種	減少種					環境指標種	国 RL	県 RDB	天記・種保存	
					山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜					
1	トンボ目 (蜻蛉目)	イトトンボ科	ヒヌマイトトンボ	1, 2	EX	EX	EX	EX	EX	—	EN	CR+EN	—	
2		サナエトンボ科	ウチワヤンマ	1	・	C	B	C	・	—	—	—	—	
3			ナゴヤサナエ	1, 2	・	・	C	・	・	—	VU	CR+EN	—	
4		トンボ科	ハッチョウトンボ	1	・	B	A	・	・	○	—	VU	—	
5			キトンボ	1	・	A	A	・	・	—	—	VU	—	
6			ヒメアカネ	1	・	B	A	・	・	—	—	CR+EN	—	
7	バッタ目 (直翅目)	マツムシ科	スズムシ	1	・	B	A	B	・	—	—	—	—	
8		バッタ科	カワラバッタ	1	・	・	B	B	・	○	—	NT	—	
9	カメムシ目 (半翅目)	セミ科	エゾゼミ	—	・	+	B	・	・	○	—	—	—	
10		コオイムシ科	コオイムシ	1	・	B	A	A	・	—	NT	NT	—	
11			タガメ	1	・	B	A	A	・	○	VU	CR+EN	—	
12	チョウ目 (鱗翅目)	シジミチョウ科	クロシジミ	1	・	A	A	・	・	—	EN	CR+EN	—	
13		タテハチョウ科	オオウラギンヒョウモン	—	EX	EX	EX	EX	EX	—	CR	EX	—	
14			ジャノメチョウ	—	・	C	C	C	・	○	—	—	—	
15			オオムラサキ	1	・	C	B	B	・	○	NT	—	—	
16		アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	4	・	・	+	+	・	○	—	—	—	
17			ヒメギフチョウ本州亜種	1	C	B	B	・	・	○	NT	NT	—	
18		シロチョウ科	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種	—	EX	EX	EX	EX	EX	—	EN	CR+EN	—	
19		ドクガ科	フタホシドクガ	1	・	・	C	・	・	—	—	NT	—	
20		ヤガ科	コシロシタバ	1	A	・	A	・	・	—	NT	VU	—	
21		コウチュウ目 (鞘翅目)	ハンミョウ科	ハンミョウ	—	・	B	B	・	・	—	—	—	—
22	ゲンゴロウ科		ゲンゴロウ	1	・	・	B	B	・	—	VU	NT	—	
23	クワガタムシ科		ミヤマクワガタ	—	・	C	B	・	・	○	—	—	—	
24			ノコギリクワガタ	—	・	C	C	C	・	○	—	—	—	
25	タマムシ科		ヤマトタマムシ	1, 2	・	B	A	A	・	—	—	NT	—	
26	ホタル科		ゲンジボタル	1	・	C	B	C	・	○	—	NT	—	
5 目				18 科	26 種	19	5	20	26	15	3	11	17	0

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 保全上重要な種 (昆虫類)」(平成 29 年 3 月 仙台市)

※目名、科名は、河川水辺の国勢調査平成 30 年度生物リストに基づき再整理を行ったため、仙台市の整理とは異なる場合がある。

(3) ふるさと種（動物）

仙台市に生息・生育する動物種のうち、仙台のふるさとの自然を代表する種や、市民に親しんで欲しい種として「ふるさと種」が選定されている。動物のふるさと種は表 3-25 に示すとおりである。

表3-25 ふるさと種【動物】

No	分類群	目名	科名	和名
1	哺乳類	モグラ	モグラ	アズマモグラ
2		ウサギ	ウサギ	ノウサギ
3		ネズミ	リス	ニホンリス
4		ネコ	イヌ	タヌキ
5		ウシ	ウシ	カモシカ
6	鳥類	カモ	カモ	カルガモ
7		カッコウ	カッコウ	カッコウ
8		フクロウ	フクロウ	フクロウ (※1)
9				アオバズク (※1)
10		ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ
11		スズメ	ウグイス	ウグイス
12	爬虫類	有鱗	カナヘビ	ニホンカナヘビ
13			ナミヘビ	シマヘビ
14	両生類	有尾	イモリ	アカハライモリ
15		無尾	アカガエル	トウキョウダルマガエル
16			アオガエル	カジカガエル
17	魚類	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ (※2)
18		コイ	ドジョウ	ドジョウ
19		サケ	アユ	アユ
20			サケ	サケ
21		ダツ	メダカ	ミナミメダカ
22		カサゴ	カジカ	カジカ
23		昆虫類	トンボ	トンボ
24	アキアカネ (※3)			
25	バッタ		マツムシ	スズムシ
26			イナゴ	コバネイナゴ (※4)
27				ハネナガイナゴ (※4)
28	チョウ		アゲハチョウ	アオスジアゲハ
29	コウチュウ		クワガタムシ	ミヤマクワガタ

※1：「ふるさと種」では「フクロウの仲間」として選定されている。

※2：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」本編にはニホンウナギはふるさと種として記載されていないが、同報告書資料編の目録にふるさと種として選定されているため、表に含めた。

※3：「ふるさと種」では「アカネの仲間」として選定されている。

※4：「ふるさと種」では「イナゴの仲間」として選定されている。

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）

3.4.2 動物生息地として重要な地域

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月仙台市）において、動物生息地として重要な地域について、表 3-12 に示す選定基準に基づいた選定が行われている。調査範囲内における動物生息地として重要な地域は、表 3-26 及び図 3-16 に示すとおりであり、計画地に係る重要な生息地はない。

表3-26 動物の重要な生息地




番号	名称	対象	概要	判断理由
1	竜ノ口溪谷	鳥類	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。野生動植物のハビタットとして重要。高さおよそ 70m に及ぶ絶壁が連なる狭い溪谷。ハヤブサの繁殖。	4
2	青葉山	鳥類	仙台市街地の西縁に位置する緑地で、森林性鳥類が豊富。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。豊かな里地里山生態系のシンボルであるオオタカも生息し、毎年繁殖の成功が確認されている。環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。	1, 2, 5, 6, 7
3	太白山・佐保山・鉤取国有林一帯	鳥類	太白山県立自然環境保全地域。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要。山から里までの鳥類が豊富。	2, 5, 6, 7
4	広瀬川（中～下流域）	鳥類	広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。中流部は森林性から草地、水辺の鳥まで豊富。下流部は、オジロワシ、オオタカ等の猛禽類やキジ類の草地性鳥類。アオジの生息及び繁殖。	2, 7, 8
5	奥羽山脈から青葉山丘陵地域への緑の回廊	動物全般	市街地の南部に位置する。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	2, 8
6	丸田沢緑地（水の森公園）	動物全般	丸田沢緑地環境保全地域。市街地の中央に位置し、市街地に残された、池沼を含む緑地・公園である。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。	6, 7
7	葛岡墓園・荒巻の緑地	動物全般	権現森緑地環境保全地域。仙台市南東部で市街地に隣接する緑地、公園、墓園で、丘陵地域を象徴する里地・里山が残される。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、そして奥羽山地山麓部と、青葉山や広瀬川を繋ぐ緑地、生態系回廊（生態系コリドー）として重要である。	6, 7
8	台原森林公園・真美沢公園	動物全般	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生であり、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要である。	1, 6, 7, 8
9	与兵衛沼公園	動物全般	市街地の内部に残された、まとまりのある緑地、里地・里山植生であり、野生動植物のハビタット、環境学習のフィールドとして重要である。	1, 6, 7
10	大年寺	動物全般	大年寺風致地区。市街地の南部の段丘に残された、まとまりのある緑地であり、野生動植物のハビタットとして重要である。	1, 6, 7
11	霊屋	哺乳類	風致保安林。土砂崩壊防止保安林。伊達家廟に植林されたスギの大木林で、野生動植物のハビタットとして重要。	5, 6, 7

※判断理由については表 3-12 重要な地域の選定基準に準拠

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（平成 29 年 3 月 仙台市）



凡例

-  計画地
-  区界
-  動物の重要な生息地

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」
 (平成 29 年 3 月 仙台市)



図3-16 動物生息地として重要な地域